



cs00 ユーザーズガイド

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303
U.S.A. 650-960-1300

Part Number 806-2795-10
2000年3月

Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. 901 San Antonio Road, Palo Alto, California 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政省が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド'98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。



目次

はじめに 9

1. 日本語を入力するには 17
 - 日本語を入力するには 17
 - ローマ字入力 / かな入力の切り替え 18
 - 入力できる文字の種類 19
2. 英数字キーボードでの入力方法 21
 - 日本語入力モードのオンとオフ 21
 - 日本語入力モード 22
 - 全角カタカナ・モード 22
 - 全角英数字モード 23
 - 半角カタカナ・モード 24
 - 半角英数字モード 24
 - ひらがなモード 25
 - 区点コード入力 26
 - 連文節かな漢字変換 27
 - 入力と変換 27
 - フォーカスの移動 28
 - 再変換 (次候補、前候補) 29
 - 変換候補の一括表示 30

	確定	31
	文字種の相互変換	32
	区点コード入力	34
	区点コードの入力方法	35
	区点コード入力の応用	36
	ユーザー定義文字やベンダー定義文字の入力	37
	部首入力	37
	フォーカスの範囲の変更	39
	入力途中の文字削除	40
	未確定文字列の全削除	41
3.	日本語キーボードでの入力方法	43
	日本語入力モードのオンとオフ	43
	日本語入力モード	44
	全角カタカナ・モード	44
	全角英数字モード	45
	半角カタカナ・モード	46
	半角英数字モード	46
	ひらがなモード	47
	区点コード入力	48
	連文節かな漢字変換	49
	入力と変換	49
	フォーカスの移動	50
	再変換(次候補、前候補)	51
	変換候補の一括表示	52
	確定	53
	文字種の相互変換	54
	区点コード入力	56
	区点コードの入力方法	57

	区点コード入力の応用	58
	ユーザー定義文字やベンダー定義文字の入力	59
	部首入力	59
	フォーカスの範囲の変更	61
	入力途中の文字削除	62
	未確定文字列の全削除	63
4.	cs00 の辞書ファイルの管理	65
	cs00 の辞書ファイルについて	65
	メイン辞書 (cs00_m.dic)	65
	ユーザー辞書 (cs00_u.dic)	65
	メイン辞書 (cs00_m.dic) の編集方法	67
	制限数を超過して単語を登録する	67
	ユーザー辞書 (cs00_u.dic) の編集方法	68
	かな漢字変換ユーザー辞書管理ツール	68
	cs00 ユーザー辞書ツール	68
	cs00 ユーザー辞書ツールの使用方法	69
	cs00 ユーザー辞書ツールの起動方法と対象辞書	69
	辞書登録ツールのベースウィンドウとアイコン	70
	辞書登録ツールの主な機能	71
	単語の登録／削除	71
	利用中以外の辞書編集	76
	テキストファイルの編集	78
	品詞情報	79
	障害解析	81
	Solaris 2.5.1 以前のリリースで登録したユーザー定義文字の移行	82
5.	入力サーバーの表示スタイルのカスタマイズ	83
	「プレエディット / ステータス」ウィンドウ	84
	画面上の位置	84

- カーソルの相対位置 85
- クライアントウィンドウに添付 85
- 入力指定位置 86
- 長い行をプレエディットで折返し 86
- プレエディット / ステータスウィンドウを常に表示 88
- 「ルックアップウィンドウ」ウィンドウ 88
 - プレエディット / ステータスウィンドウ 88
 - 入力カーソル近くのポップアップウィンドウ 89
 - クライアント入力ウィンドウ近くのポップアップウィンドウ 89
- 最大行 / 最大列 90
- ラベル 90
- 6. 文字コード変換機能のカスタマイズ 91**
 - 文字コード変換定義用ファイル 91
 - 文字コード変換定義用ファイルの書式 92
- 7. かな漢字変換サーバーインタフェースモジュールのカスタマイズ 95**
 - xcj のカスタマイズ 95
 - 検索順序 95
 - resources ファイルの設定 96
 - resources ファイルのカスタマイズ例 97
 - cm のカスタマイズ 102
 - cm を使用するための設定 102
 - 検索順序 106
 - カスタマイズの例 106
 - 変換サーバーの初期設定 108
- 8. cs00 の起動 111**
 - 再起動方法 111
 - 自動起動の抑止 111
- A. ローマ字のつづり方 113**

ローマ字のつづり方 113

特別例 116

B. 操作一覧 117

索引 121

はじめに

cs00 は、ひらがな・カタカナ・漢字などの文字を入力するときに使用するかな漢字変換サーバーです。このマニュアルでは、Solaris™ 上での cs00 を使った文字の入力方法、辞書の編集方法、cs00 の起動方法について説明します。このマニュアルを読む前に、cs00 の最新情報について『Solaris 8 ご使用にあたって』を参照してください。

cs00 の概要とセットアップ方法については、『日本語入力システムの概要とセットアップ』を参照してください。

対象読者

このマニュアルは、かな漢字変換サーバーとして cs00 を使用する方を対象としています。cs00 のファイル構成や起動方法、文字の入力方法、辞書の編集方法について知りたい場合にご利用ください。

内容の紹介

第 1 章

日本語入力モードに入る方法について説明します。

第 2 章

英数字キーボードで、日本語を入力する方法について説明します。

第 3 章

日本語キーボードで、日本語を入力する方法について説明します。

第 4 章

cs00 の辞書ファイルの管理方法について説明します。

第 5 章

漢字候補の表示方法とプレディットの表示方法のカスタマイズ方法について説明します。

第 6 章

cs00 の文字コード変換機能をカスタマイズする方法を説明します。

第 7 章

かな漢字変換サーバーインタフェースモジュール xci と、cm のカスタマイズについて説明します。

第 8 章

cs00 の起動方法について説明します。

付録 A

ローマ字かな変換で使用されるつづり方の一覧表です。

付録 B

cs00 で使用される機能の一覧表です。

読んでおく必要のあるドキュメント

- 『Solaris 8 ご使用にあたって』(該当するプラットフォーム用)
- 『JFP ユーザーズガイド』
- 『日本語入力システムの概要とセットアップ』

Sun のマニュアルの注文方法

専門書を扱うインターネットの書店 Fatbrain.com から、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルをご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www1.fatbrain.com/documentation/sun> の Sun Documentation Center をご覧ください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索をおこなうこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。

表 P-1 表記上の規則 続く

字体または記号	意味	例
『 』	入力するキーを示します。または、参照する書名を示します。	『変換キー』でかな漢字変換を行います。詳細については『ユーザーズガイド』を参照してください。
[]	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェルプロンプト

```
system% command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト

```
system$ command y|n [filename]
```

■ スーパーユーザーのプロンプト

```
system# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

マウスボタンの使い方、ウィンドウメニューの使い方については、『OpenWindows ユーザーズガイド』を参照してください。

入力方法の表現

このマニュアルではキー入力の方法を次のように説明します。

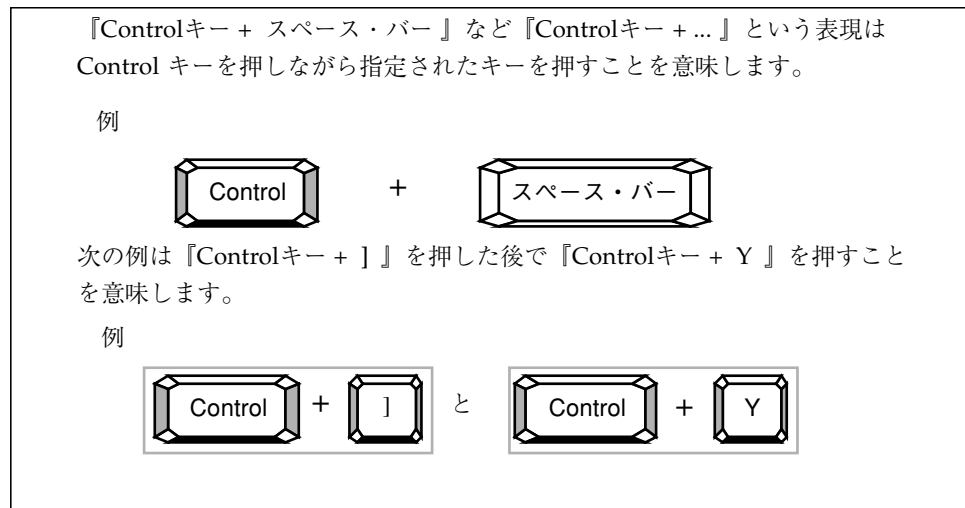


図 P-1 このマニュアルでの入力方法の表記

文字列の表現

変換キーが押されていない状態の文字列を「入力よみ文字列」、変換キーが押された状態の文字列を「変換文字列」、確定キーが押された状態の文字列を「確定文字列」と呼びます。また、「入力よみ文字列」と「変換文字列」を総称して「未確定文字列」と呼びます。

画面例について

このマニュアルでは、日本語 OpenWindows 環境の画面例を使用して解説しています。Solaris 共通デスクトップ環境 (以降「Solaris CDE」とします) の画面とは、ヘッダー表示などに若干の違いがある場合があります。

キーボードの種類

日本語を入力する場合、キーボードによってキーの操作が異なります。ここでは各種のキーボードを示します。



注意 - この章で示す各種キーボードは SPARC 版のキーボードです。IA 版のキーボードを使用している場合は、次の表に従って、SPARC 版のキーを IA 版のキーに読み換えてください。

表 P-2 SPARC 版キーボードと IA 版キーボードのキーの対応


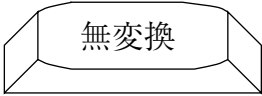
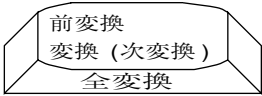
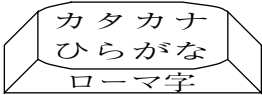

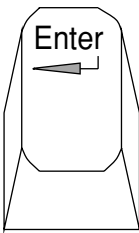
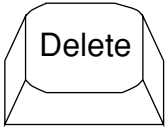
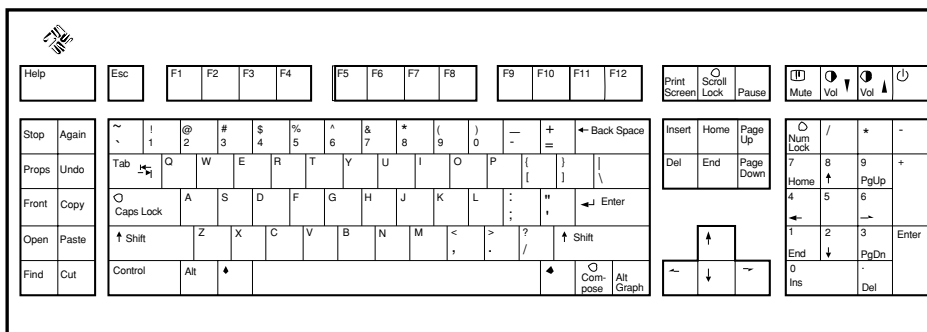
SPARC 版	IA 版
【日本語 ON/OFF】	 半角/ 全角 漢字
【確定】	 無変換
【変換】	 前変換 変換 (次変換) 全変換
【ローマ字 / かな】	 カタカナ ひらがな ローマ字
【Control】	 Ctrl

表 P-2 SPARC 版キーボードと IA 版キーボードのキーの対応 続く

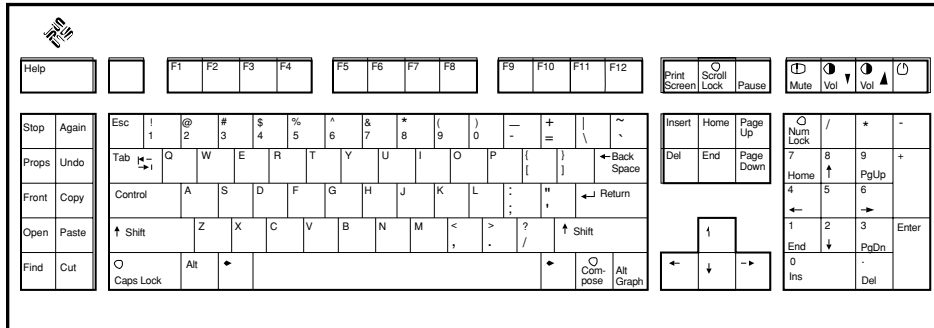
SPARC 版	IA 版
【Return】	
【Delete】	

英数字キーボード

キーボードの配列はそれぞれ以下のようにになっています。

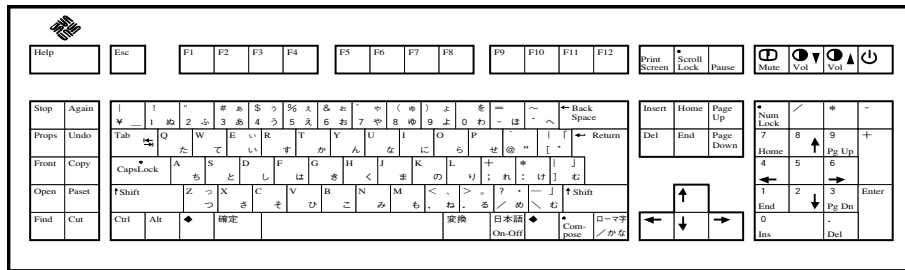


米国版タイプ5キーボード



UNIX タイプ 5 キーボード

日本語キーボード



日本語タイプ 5 キーボード

英数字キーボードで使用できるキー操作の機能は、すべて日本語キーボードで使用することができます。

一般規則

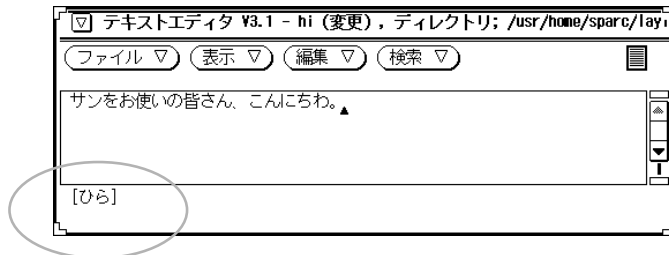
- このマニュアルでは、「IA」という用語は、Intel 32 ビットのプロセッサアーキテクチャを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Celeron、Pentium III、Pentium III Xeon の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。

日本語を入力するには

日本語を入力するには

テキストエディタ (dtpad) や端末エミュレータ (dtterm) など、Solaris CDE デスクトップツールや、ユーザーが作成した日本語入出力可能なアプリケーション上などで実際に日本語を入力する場合、日本語を入力したいその場所で日本語入力モードに入り、かな漢字変換操作を行います。

たとえば、テキストエディタ (この例では `textedit`) を起動して、文章を作成するときは、日本語入力モードをオンにして日本語を入力します。



「日本語入力モードのオン」とは、キーボード入力でかな漢字変換など日本語の入力ができる状態のことです。オンかオフかは、ウィンドウの左下に表示されているラベル (前の図の丸い枠の部分) でわかります。日本語入力モードがオフの場合、このラベルは「無変換」という表示になります。日本語入力モードがオンの場合は、該当する入力のモードが表示されます。



オンとオフの方法については、英数字キーボードでは 21ページの「日本語入力モードのオンとオフ」を、日本語キーボードでは 43ページの「日本語入力モードのオンとオフ」を参照してください。

下の図は、メールツールで日本語入力をしている例です。



注意 - 日本語入力モードがオンのときは日本語入力以外の操作 (カーソル移動、メニューなど) は正しく動作しません。日本語を入力するとき以外は日本語入力モードをオフにしてください。

ローマ字入力 / かな入力の切り替え

日本語キーボードでは、ローマ字入力のほかに、かな入力ができます。ローマ字入力とかな入力の切り替えは、『ローマ字/かなキー』で行います。



ローマ字入力 → かな入力の切り替え

入力できる文字の種類

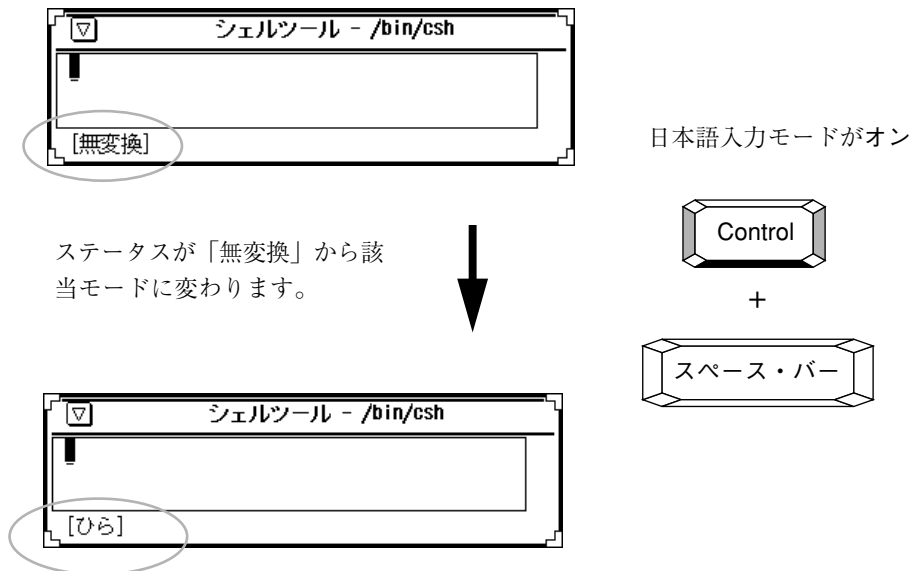
cs00 の日本語入力機能を使って入力できる文字種は次の5種類です。

- 全角ひらがな
- 全角カタカナ
- 全角英数字
- 半角カタカナ
- 半角英数字

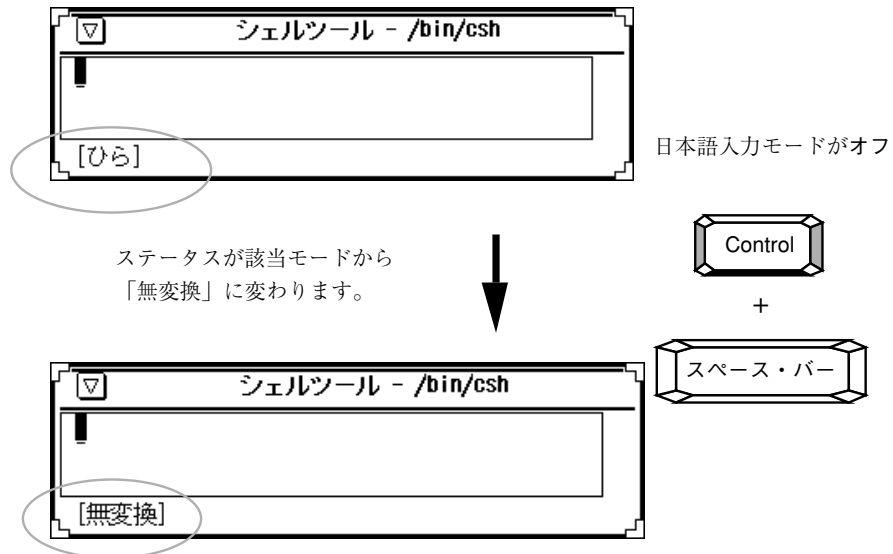
英数字キーボードでの入力方法

日本語入力モードのオンとオフ

日本語入力モードのオンとオフの切り替えは、『Control キー + スペース・バー』または『Control キー + @』で行います。日本語入力モードがオフの状態では『Control キー + スペース・バー』または『Control キー + @』を押すと、ウィンドウのステータスが次のように「無変換」から該当モードに変わります。



日本語入力モードがオンの状態で『Control キー + スペース・バー』 または『Control キー + @』を押すとウィンドウのステータスが下図のように該当モードから「無変換」に変わります。

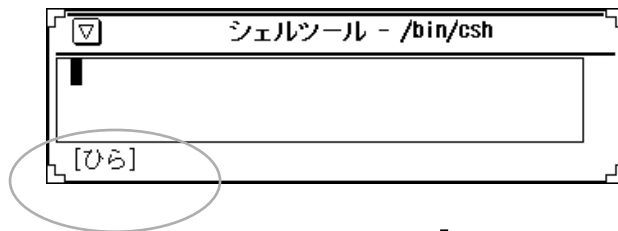


日本語入力モード

入力モードの変更方法について説明します。

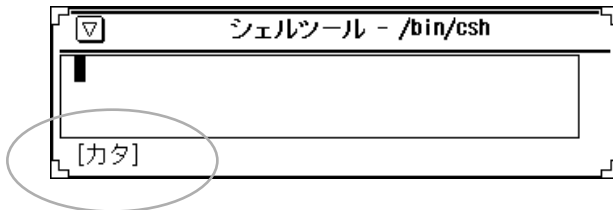
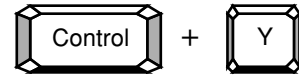
全角カタカナ・モード

全角カタカナ・モードにするには、『Control キー + Y』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから全角カタカナ・モードに変わったことを表示します。



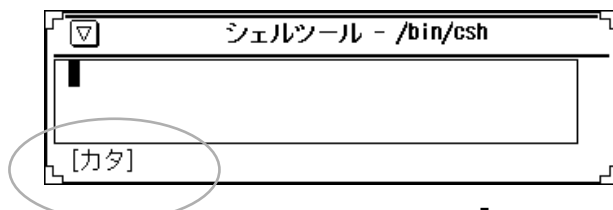
全角カタカナ・モード

ステータスが「ひら」から「カタ」に変わります。



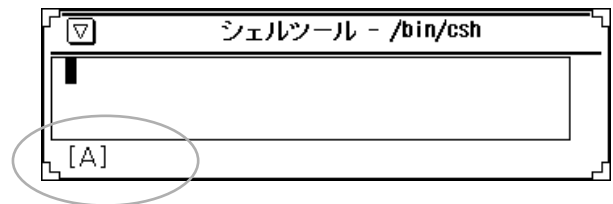
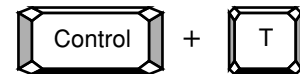
全角英数字モード

全角英数字モードにするには、『Control キー + T』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから全角英数字モードに変わったことを表示します。



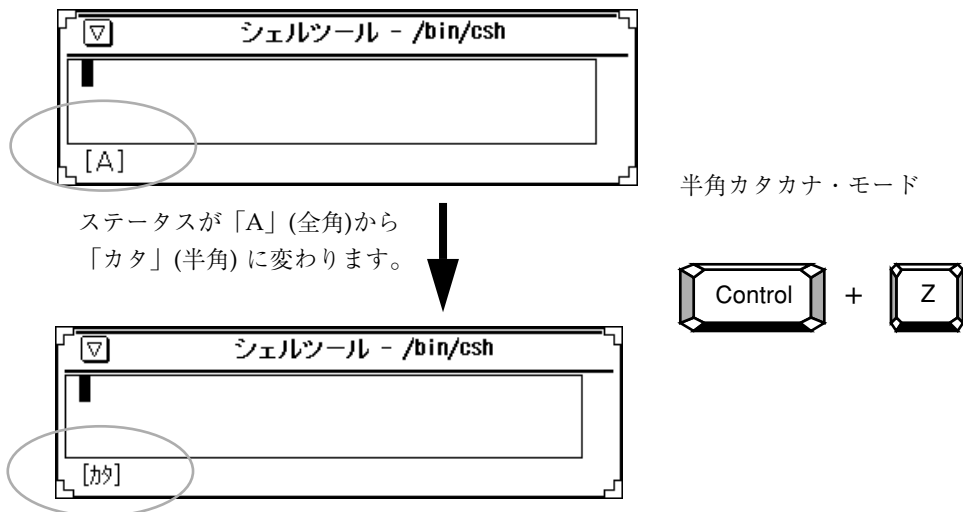
全角英数字モード

ステータスが「カタ」から「A」(全角)に変わります。



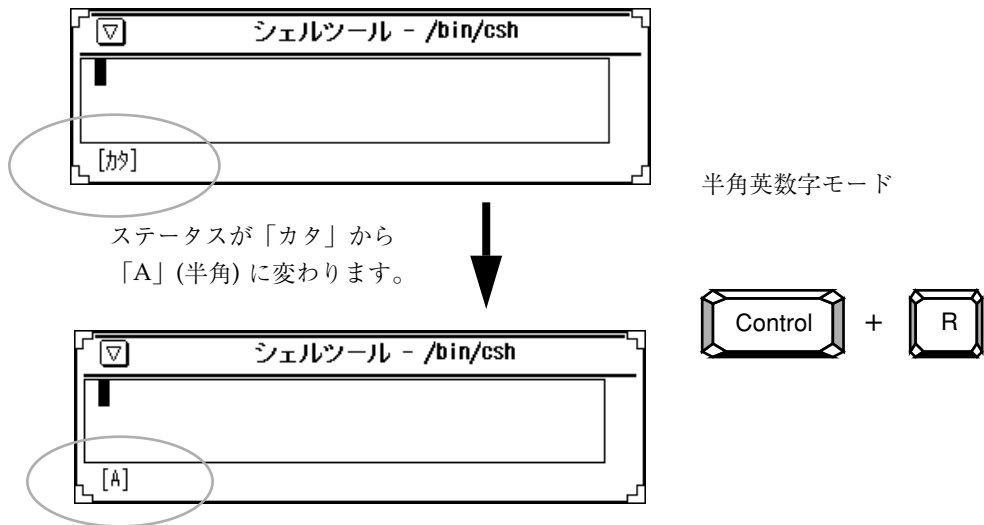
半角カタカナ・モード

半角カタカナ・モードにするには、『Control キー + Z』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから半角カタカナ・モードに変わったことを表示します。



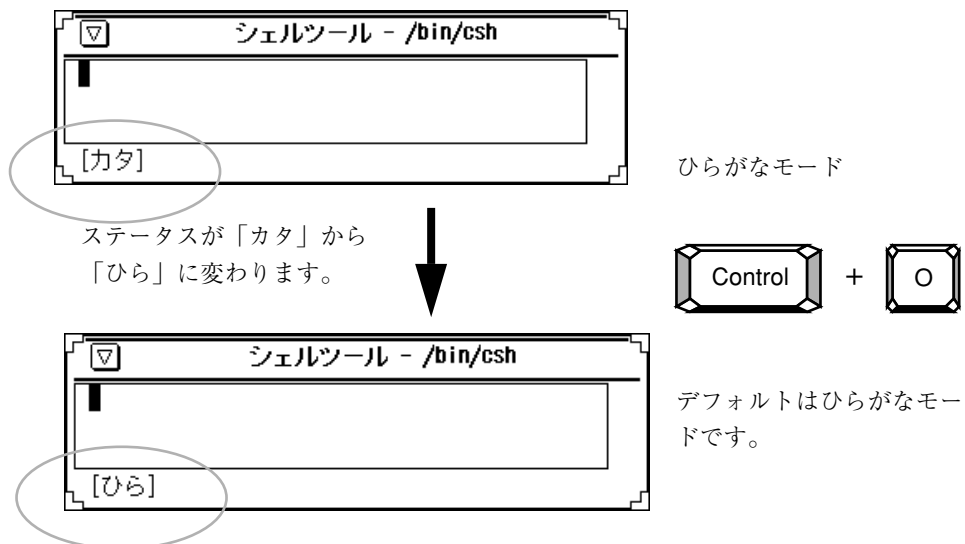
半角英数字モード

半角英数字モードにするには、『Control キー + R』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから半角英数字モードに変わったことを表示します。



ひらがなモード

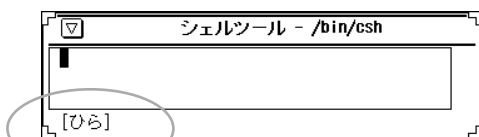
日本語入力でひらがなモードにするには、『Control キー + O』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードからひらがなモードに変わったことを表示します。



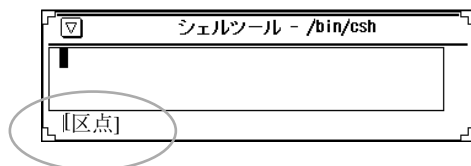
区点コード入力

日本語 EUC コードセット 1 の文字を選択する場合

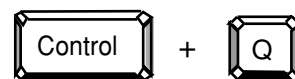
日本語 EUCコードセット 1 の区点コード入力のモードにするには、『Control キー + Q』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから区点コード入力のモードに変わったことを表示します。



ステータスが「ひら」から「区点」に変わります。



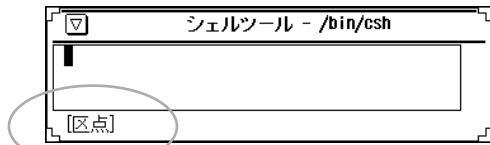
補助漢字区点コード入力モード



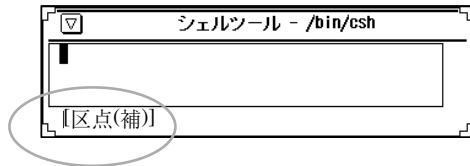
詳しい入力方法は、17 ページの「区点コード入力」を参照してください。

補助漢字 (日本語 EUC コードセット 3) の文字を選択する場合

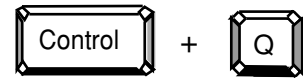
補助漢字 (日本語 EUC コードセット 3) の区点コード入力のモードにするには、もう一度『Control キー + Q』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが、補助漢字の区点コード入力のモードに変わったことを表示します。



ステータスが「区点」から「区点(補)」に変わります。



補助漢字区点コード入力モード



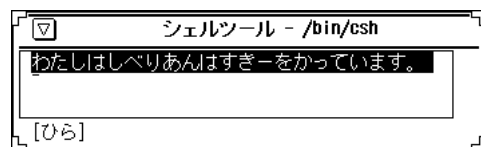
詳しい入力方法は、17 ページの「区点コード入力」を参照してください。

連文節かな漢字変換

連文節かな漢字変換を行う方法を説明します。cs00 では最大 512 文字まで連文節変換を行うことができます。その中でアルファベットやカタカナが混在していても差し支えありません。

入力と変換

まず前述の各種モード説明を参照しながら次のように例文を入力します。

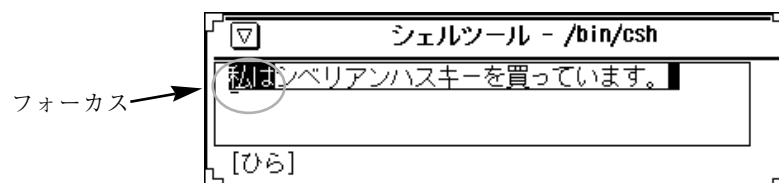
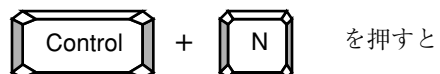


キー入力

WATASIHA	→	「わたしは」
SIBERIANNHASUKI-	→	「シベリアンハスキー」
WO	→	「を」

KATTEIMASU. → 「かっています。」

『Control キー + N』 でかな漢字変換を行います。



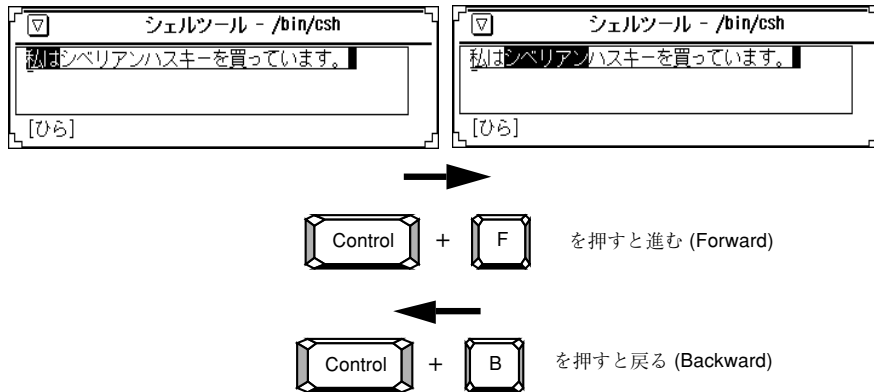
この図のように先頭の「私は」の部分が反転して (以後、かな漢字変換後に反転して表示される部分を「フォーカス」と呼ぶ)、残りの部分に下線が付きます。

フォーカスされている部分が、その時点での操作の対象となります。

注 - 学習機能などにより変換結果がこのようにならない場合もあります。

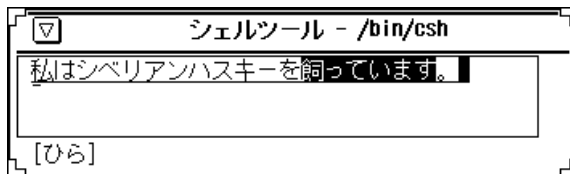
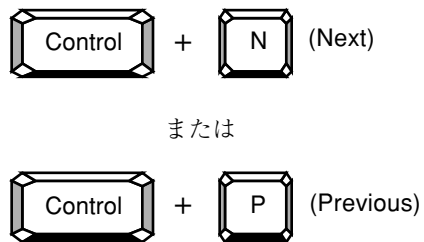
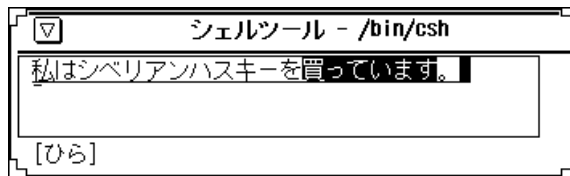
フォーカスの移動

変換の対象を次へ進める場合は、『Control キー + F』を入力します。また、前へ戻る場合は『Control キー + B』を入力します。



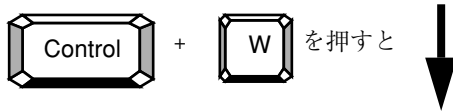
再変換 (次候補、前候補)

フォーカスを移動して漢字変換を行う場合は、「買っています」にフォーカスを合わせて『Control キー + N』を何回か入力して「飼っています」に変更します。前の候補に戻りたいときは、『Control キー + P』を入力します。

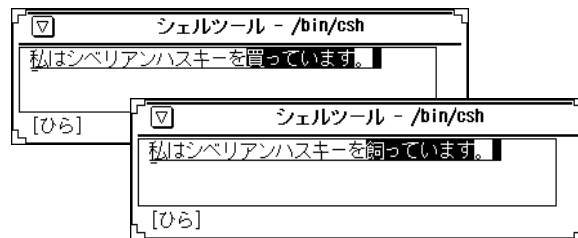
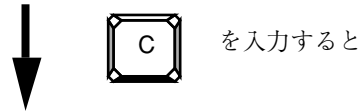
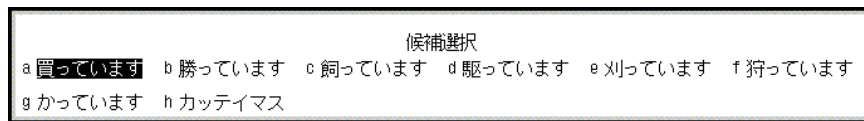


変換候補の一括表示

かな漢字変換を行う際に変換候補を一括表示することができます。一括表示を行うには、『Control キー + W』を入力します。

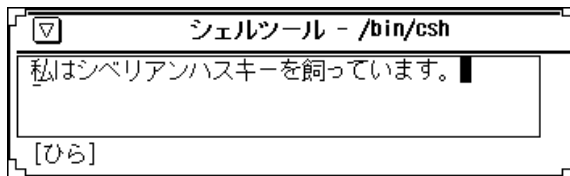
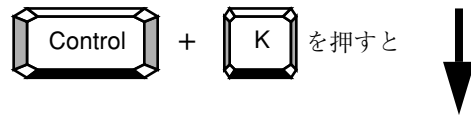
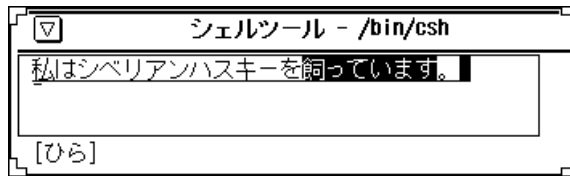


次のように一括表示されます。変換したい文字のアルファベットを入力します。



確定

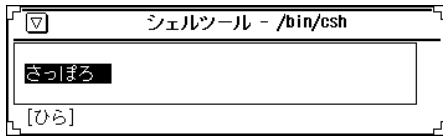
すべての変換が終了したら、入力の確定を行い変換モードから抜けます。確定は下線の付いている部分が対象となります。『Control キー + K』を入力すると、入力が確定します。



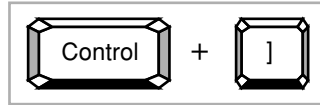
文字種の相互変換

フォーカスされている文字の種類を自由に変更することができます。『Control キー +]』と、それぞれの文字種の切り替えキーを使うことによって、簡単に文字種を切り替えることができます。

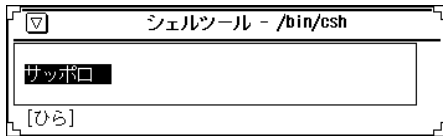
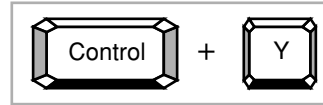
たとえば、ひらがなモードで「さっぽろ」と入力します。



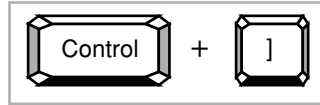
全角ひらがな → 全角カタカナ



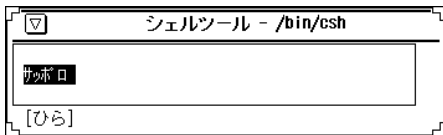
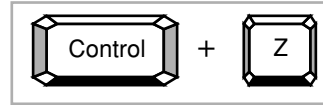
と



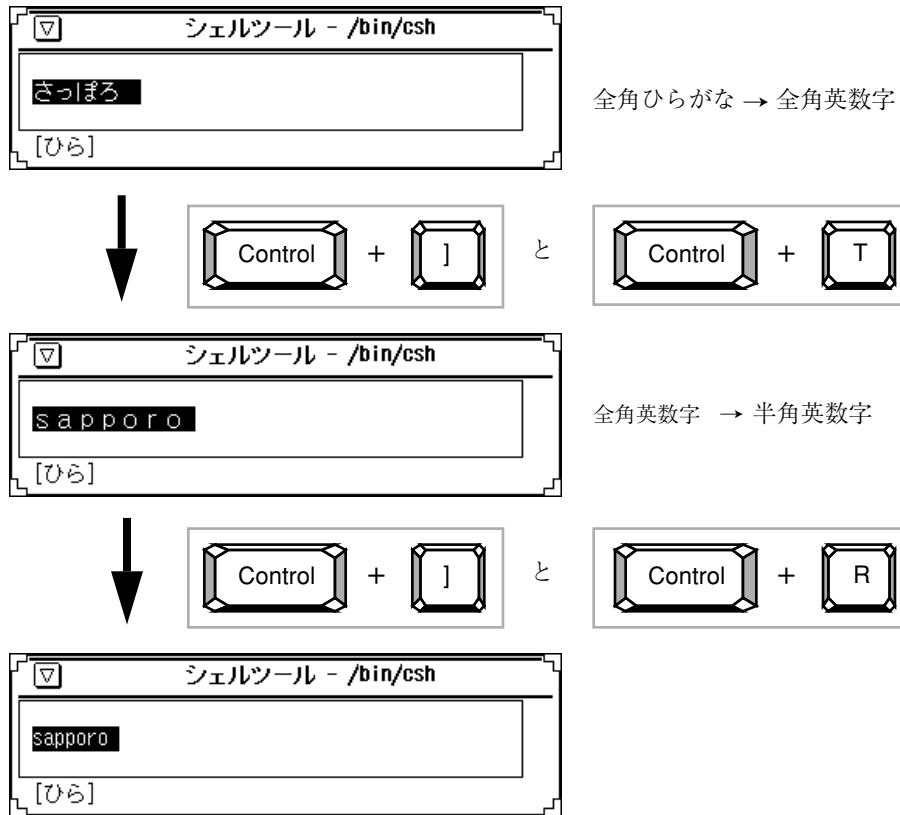
全角カタカナ → 半角カタカナ



と



また、入力よみ文字列状態のとき、ローマ字入力で文字を入力した場合に限り、次のように切り替えることができます。



区点コード入力

日本語 EUC コードセット 1 の区点コードを入力するには『Control キー + Q』を入力して、区点コード入力モードに入り区点を入力します。補助漢字 (日本語 EUC コードセット 3) の区点コードを入力するには、区点コード入力モードの状態でもう一度『Control キー + Q』を入力します。日本語 EUC コードセット 1 の区点コード入力画面と補助漢字の区点コード入力画面は、『Control キー + Q』で切り替えられます。

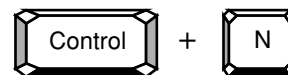
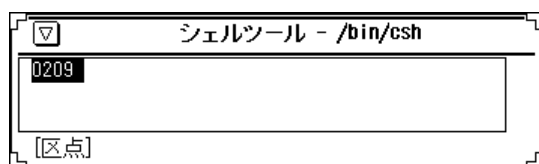
変換操作は読みを入力して変換する方法と同じです。なお、区点コード番号と文字の対応は `kanji` コマンドを使用することで参照できます (`kanji -k`)。詳しくは、`kanji(1)` のマニュアルページを参照してください。

区点コードの入力方法

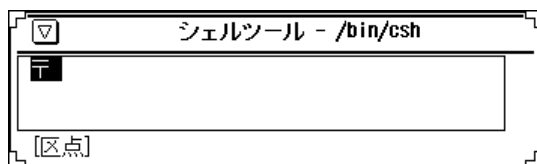
区点コードの入力は4桁のコードを入力する方法と、先頭2桁のコードを入力する方法の2種類があります。これらの入力方法は、補助コードセット1、3で共通です。

区点コード番号 (4 ケタ) を入力して表示する

区点コード番号 (4 ケタ) を入力して変換します。

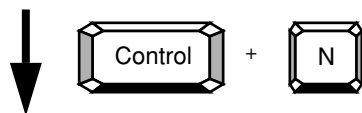
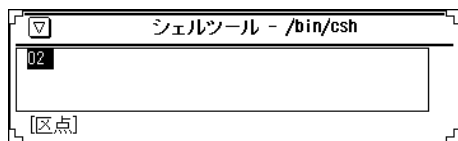


で変換します。



区のコード番号だけ (2 ケタ) を入力して候補から選ぶ

区のコード番号だけ (2 ケタ) を入力して変換します。候補が一括表示されるので、変換したい文字のアルファベットを入力します。



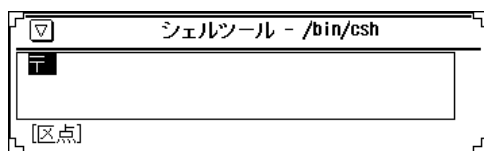
で変換します。



いくつかの候補が一括表示されるので
選びたい文字を選択します。

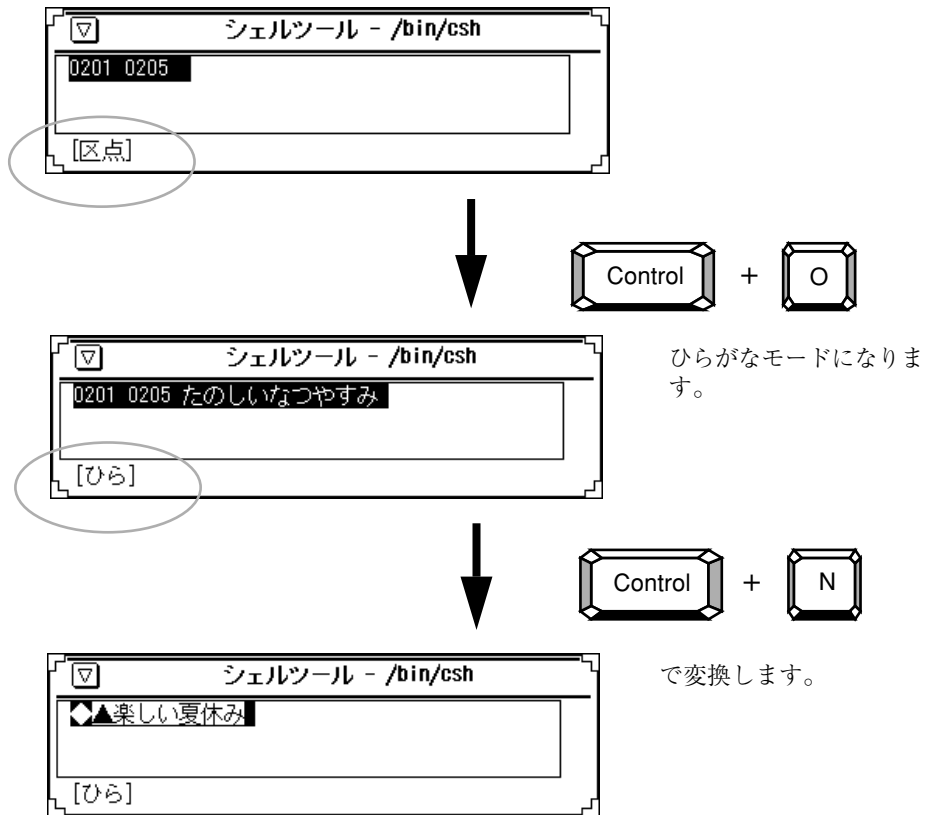


を入力します。



区点コード入力の応用

区点コード番号を入力したあと、続けて他の区点コード番号を入力したり、他の入力モードに切り替えて入力続けることができます。このとき、区点コード番号の後に半角スペースを入れてください。

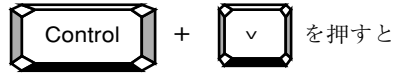
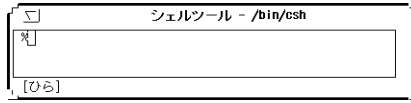


ユーザー定義文字やベンダー定義文字の入力

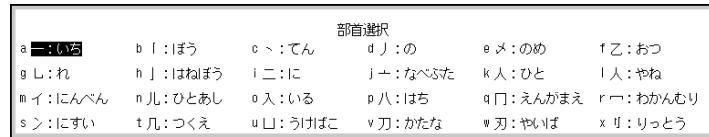
cs00 を使用してユーザー定義文字やベンダー定義文字を入力するには、区点コード入力を利用します。区点コードを知るには、`kanji` コマンドを利用すると便利です (`kanji -k`)。 `kanji` コマンドについては、`kanji(1)` のマニュアルページを参照してください。

部首入力

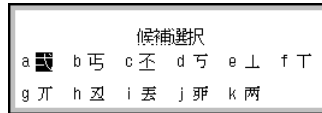
日本語入力モードで、『Control キー + V』を押すと部首入力モードになり、部首の一覧が表示されます。部首の一覧から部首を選ぶと、漢字の候補が表示されます。漢字の候補には、JIS 第二水準の漢字と補助漢字が表示されます。



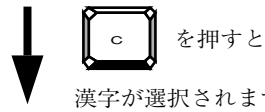
次のように部首の一覧が表示されます



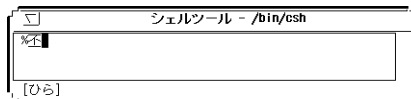
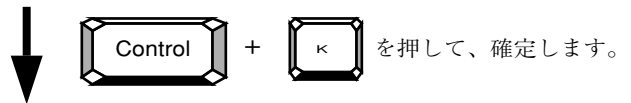
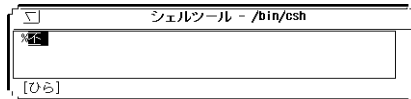
次のように選択した部首
に対応する漢字の候補が
表示されます。



部首の一覧に戻ります。



漢字が選択されます。

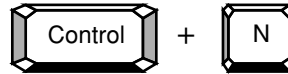
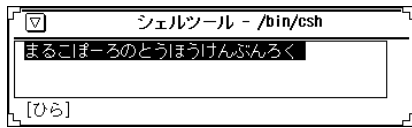




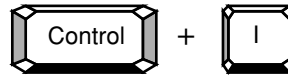
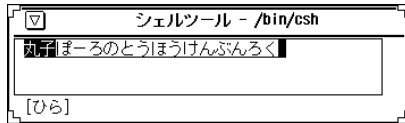
注意 - 端末の設定により『Control キー + V』がすでにある機能に割り当てられていると、部首入力が利用できないことがあります。例えば、`stty -a` の出力の中に `"lnext = ^v;"` という文字列が含まれる場合は、`stty lnext ""` とすると部首入力が利用できます。

フォーカスの範囲の変更

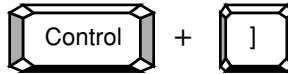
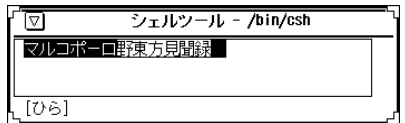
フォーカスの範囲は自動的に指定されますが、変更したい場合にはフォーカスの末尾を調整することができます。フォーカスを 1 文字拡張したい場合は『Control キー + I』を入力します。また、フォーカスを 1 文字縮小したい場合は『Control キー + U』を入力します。



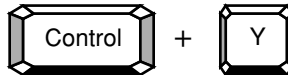
を押して変換します。



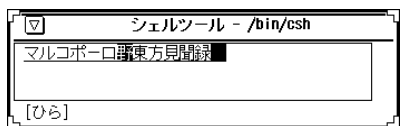
を押してフォーカスを「丸子」から「まるこぼーろ」までひろげ、



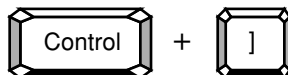
を押した後



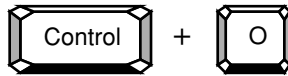
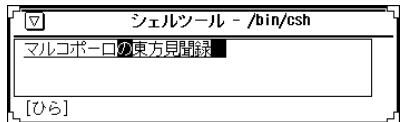
を押して再変換します。



フォーカスを「野」に移動し



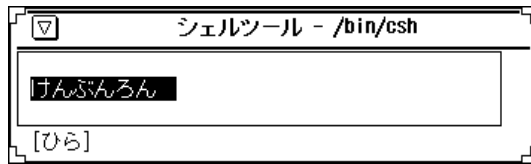
を押した後



を押して再変換します。

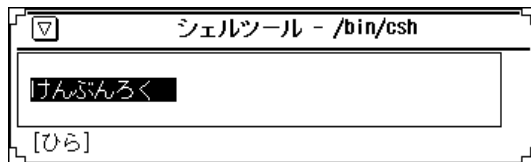
入力途中の文字削除

入力途中に文字を削除したい場合は『Control キー + H』、『Del キー』、または『Back Space キー』を入力すると、1文字削除できます。



Control + H を押して

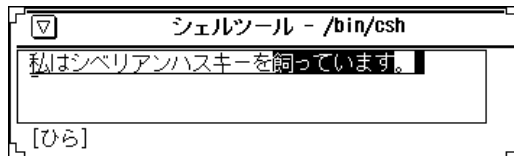
「ん」を削除します。



正しい文字を入力します。

未確定文字列の全削除

未確定文字列をすべて削除したい場合は『Control キー +]』 + 『Control キー + U』を入力します。

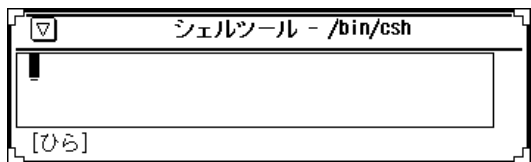


Control +] を押した後



Control + U を押して

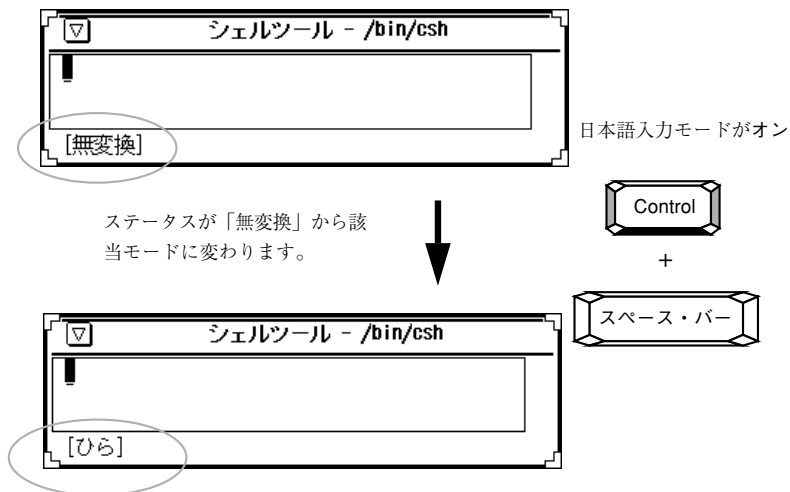
全文削除します。



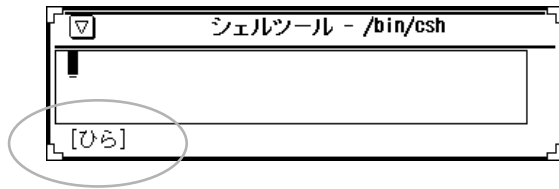
日本語キーボードでの入力方法

日本語入力モードのオンとオフ

日本語入力モードのオンとオフの切り替えは、日本語入力モードがオフの状態ですべてのキーが『日本語 On・Off キー』を押すと、ウィンドウのステータスが次のように「無変換」から該当モードに変わります。



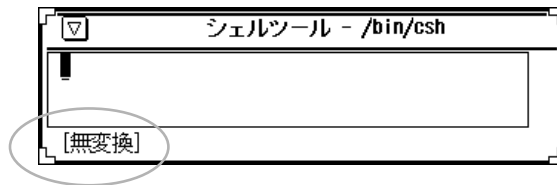
日本語入力モードがオンの状態で『日本語 On・Off キー』を押すとウィンドウのステータスが下図のように「無変換」に変わります。



日本語入力モードがオフ



ステータスが該当モードから
「無変換」に変わります。

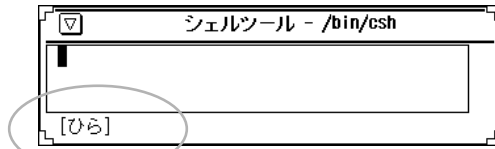


日本語入力モード

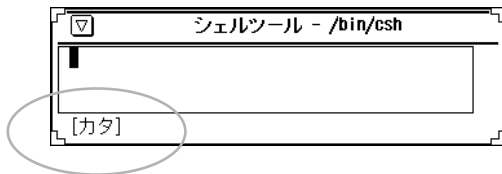
各入力モードへの変更方法について説明します。

全角カタカナ・モード

全角カタカナ・モードにするには、『F10 キー』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから全角カタカナ・モードに変わったことを表示します。



ステータスが「ひら」から「カタ」に変わります。

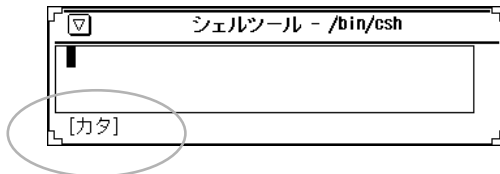


全角カタカナ・モード

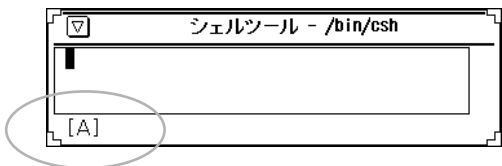


全角英数字モード

全角英数字モードにするには、『F9 キー』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから全角英数字モードに変わったことを表示します。



ステータスが「カタ」から「A」(全角)に変わります。

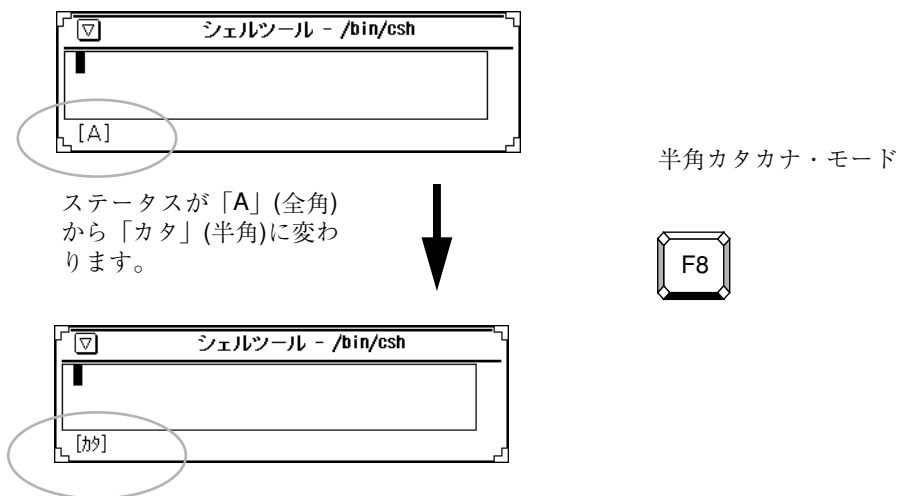


全角英数字モード



半角カタカナ・モード

半角カタカナ・モードにするには、『F8 キー』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから半角カタカナ・モードに変わったことを表示します。



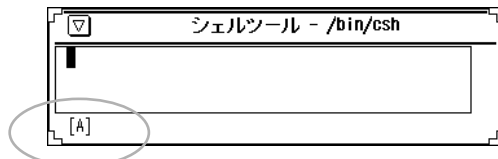
半角英数字モード

半角英数字モードにするには、『F7 キー』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから半角英数字モードに変わったことを表示します。



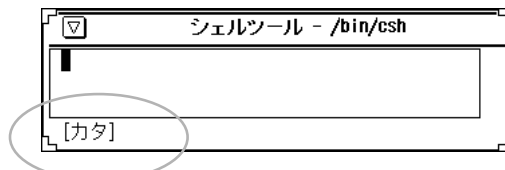
半角英数字モード

↓
ステータスが「カタ」から「A」(半角)に変わります。



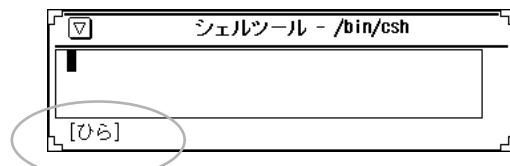
ひらがなモード

日本語入力でひらがなモードにするには、『F11 キー』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードからひらがなモードに変わったことを表示します。



ひらがなモード

↓
ステータスが「カタ」から「ひら」に変わります。



デフォルトはひらがなモードになっています。

ローマ字入力 / かな入力の切り替え

日本語キーボードでは、ローマ字入力のほかに、かな入力ができます。ローマ字入力とかな入力の切り替えは、『ローマ字/かなキー』で行います。

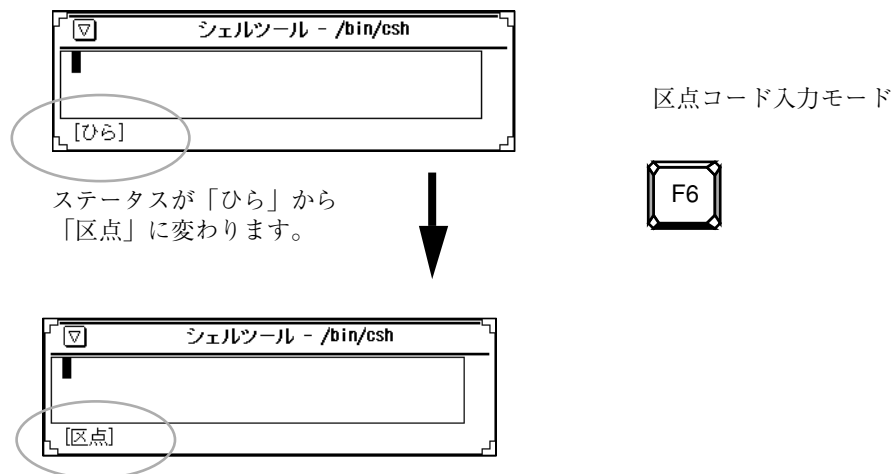


ローマ字入力 → かな入力の切り替え

区点コード入力

日本語 EUCコードセット 1 の文字を選択する場合

日本語 EUCコードセット 1 の区点コード入力モードにするには、『F6 キー』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが他のモードから区点コード入力モードに変わったことを表示します。



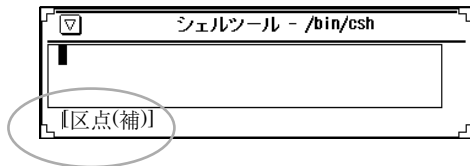
注 - 詳しい入力方法は、56ページの「区点コード入力」を参照してください。

補助漢字 (日本語 EUCコードセット 3) の文字を選択する場合

補助漢字 (日本語 EUCコードセット 3) の区点コード入力モードにするには、もう一度『F6 キー』を入力します。すると、ウィンドウのステータスが、補助漢字の区点コード入力モードに変わったことを表示します。



ステータスが「区点」から
「区点(補)」に変わります。



補助漢字区点コード入力モード



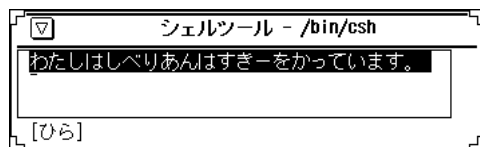
注 - 詳しい入力方法は、56ページの「区点コード入力」を参照してください。

連文節かな漢字変換

連文節かな漢字変換を行う方法を説明します。cs00 は最大 512 文字まで連文節変換を行うことができます。その中でアルファベットやカタカナが混在していても差し支えありません。

入力と変換

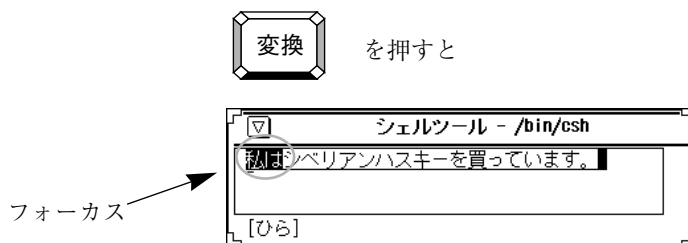
まず前述の各種モード説明を参照しながら次のように例文を入力します。



キー入力

WATASIHA	→	「わたしは」
SIBERIANNHASUKI-	→	「シベリアンハスキー」
WO	→	「を」
KATTEIMASU.	→	「かっています。」

『変換キー』でかな漢字変換を行います。



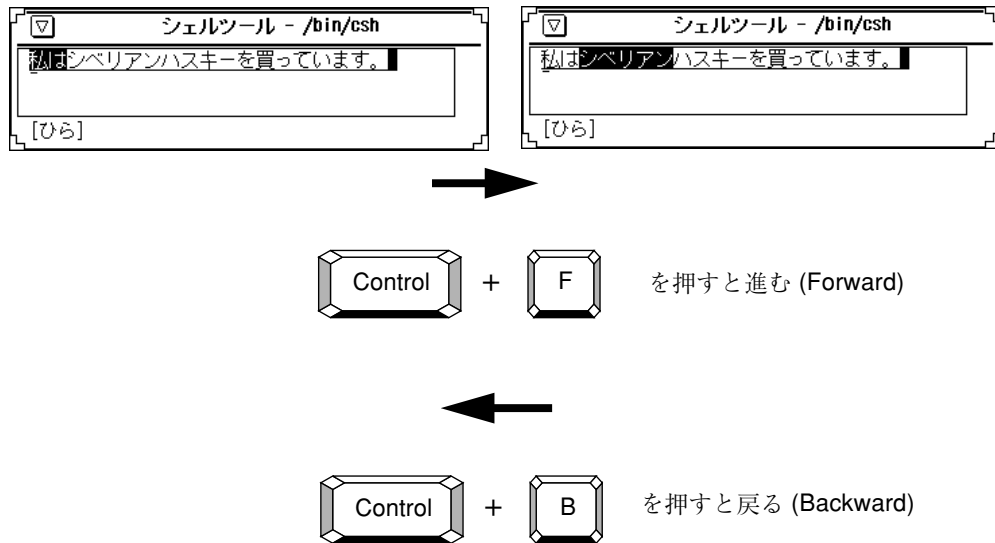
この図のように先頭の「私」の部分が反転して (以後、かな漢字変換後に反転して表示される部分をフォーカスと呼ぶ)、残りの部分に下線が付きます。

フォーカスされている部分が、その時点での操作の対象となります。

注 - 学習機能などにより変換結果がこのようにならない場合もあります。

フォーカスの移動

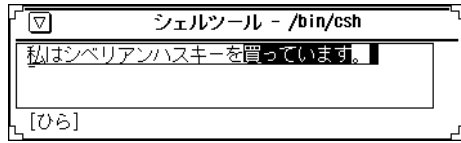
変換の対象を次へ進める場合は、『Control キー + F』を入力します。また、前へ戻る場合は『Control キー + B』を入力します。



再変換 (次候補、前候補)

フォーカスを移動して漢字変換を行う場合は、「買っています」にフォーカスを合わせて『変換キー』を何回か入力して「飼っています」に変更します。

前の候補に戻りたいときは、『Control キー + P』を入力します。



(次候補) を押すと

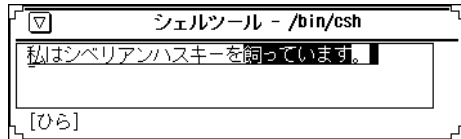
または



+

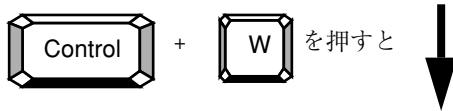


(Previous)

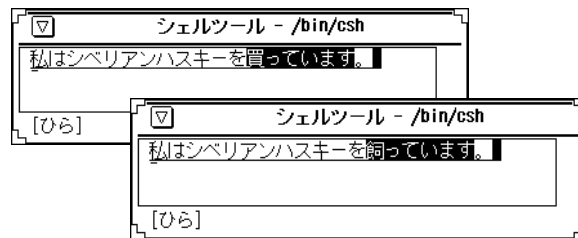
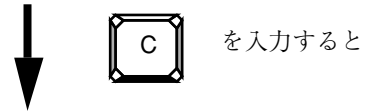
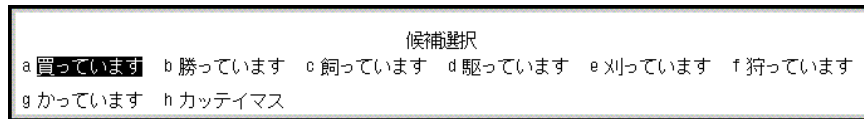


変換候補の一括表示

かな漢字変換を行う際に変換候補を一括表示することができます。一括表示を行うには、『Control キー + W』を入力します。

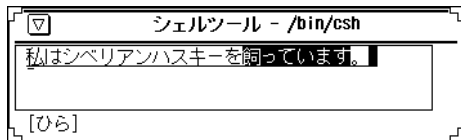


次のように一括表示されます。変換したい文字のアルファベットを入力します。

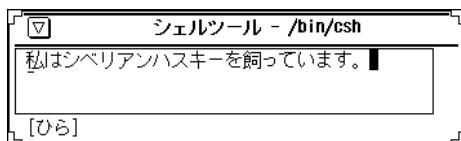


確定

すべての変換が終了したら、入力の確定を行い変換モードから抜けます。確定は下線の付いている部分が対象となります。『確定キー』を入力すると、入力確定します。



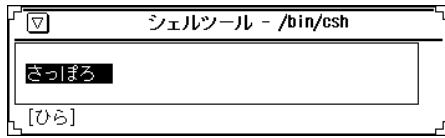
を押すと



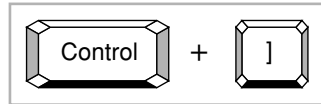
文字種の相互変換

フォーカスされている文字の種類を自由に変更することができます。『Control キー +]』と、それぞれの文字種の切り替えキーを使うことによって、簡単に文字種を切り替えることができます。

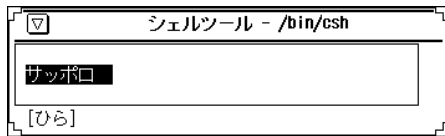
たとえば、ひらがなモードで「さっぽろ」と入力します。



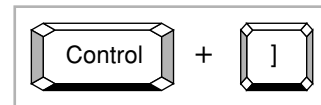
全角ひらがな → 全角カタカナ



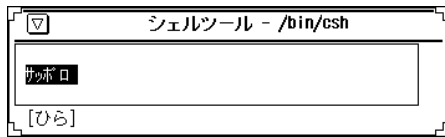
と



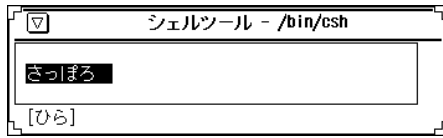
全角カタカナ → 半角カタカナ



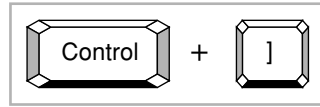
と



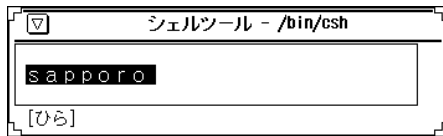
また、入力よみ文字列状態のとき、ローマ字入力で文字を入力した場合に限り、次のように切り替えることができます。



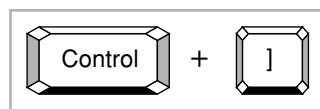
全角ひらがな → 全角英数字



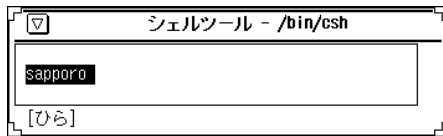
と



全角英数字 → 半角英数字



と



区点コード入力

日本語 EUCコードセット 1 の区点コードを入力するには『F6 キー』を入力して、区点コード入力モードに入り区点を入力します。補助漢字 (日本語 EUCコードセット 3) の区点コードを入力するには、区点コード入力モードの状態、もう一度『F6 キー』を入力します。EUC コードセット 1 の区点コード入力画面と、補助漢字の区点コード入力画面は、『F6 キー』で切り替えられます。

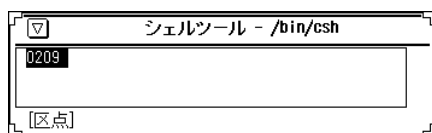
変換操作は読みを入力して変換する方法と同じです。なお、区点コード番号と文字の対応は `kanji` コマンドを使用することで参照できます (`kanji -k`)。詳しくは、`kanji(1)` のマニュアルページを参照してください。

区点コードの入力方法

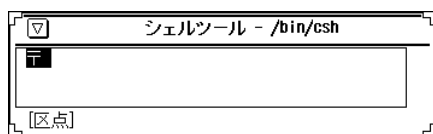
区点コードの入力は4桁のコードを入力する方法と、先頭2桁のコードを入力する方法の2種類があります。これらの入力方法は、日本語 EUC コードセット 1、3 で共通です。

区点コード番号 (4 ケタ) を入力して表示する

区点コード番号 (4 ケタ) を入力して変換します。

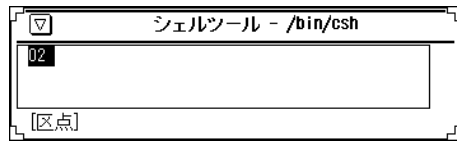


で変換します。



区のコード番号だけ (2 ケタ) を入力して候補から選ぶ

区のコード番号だけ (2 ケタ) を入力して変換します。候補が一括表示されるので、変換したい文字のアルファベットを入力します。



で変換します。



いくつかの候補が一括表示されるので、選びたい文字を選択します。



を入力します。

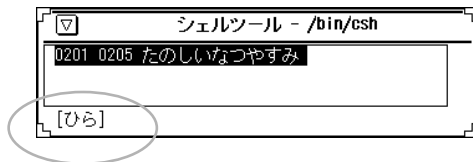


区点コード入力の応用

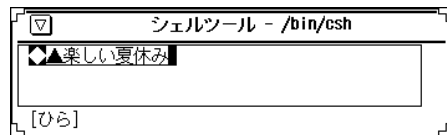
区点コード番号を入力したあと、続けて他の区点コード番号を入力したり、他の入力モードに切り替えて入力続けることができます。このとき、区点コード番号の後に半角スペースを入れてください。



ひらがなモードになります。



で変換します。

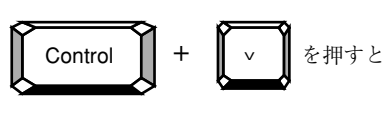
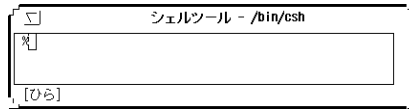


ユーザー定義文字やベンダー定義文字の入力

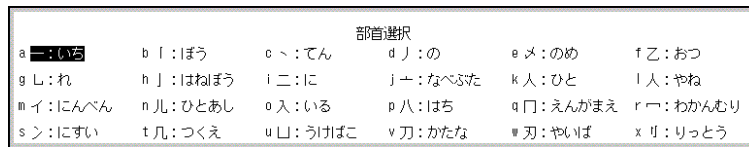
cs00 を使用してユーザー定義文字やベンダー定義文字を入力するには、区点コード入力を利用します。区点コードを知るには、kanji コマンドを利用すると便利です (kanji -k)。kanji コマンドについては、kanji (1) のマニュアルページを参照してください。

部首入力

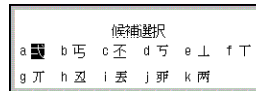
日本語入力モードで、『Control キー + V』を押すと部首入力モードになり、部首の一覧が表示されます。部首の一覧から部首を選ぶと、漢字の候補が表示されます。漢字の候補には、JIS 第二水準の漢字と補助漢字が表示されます。



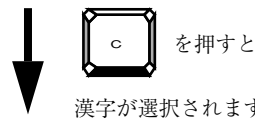
次のように部首の一覧が表示されます。



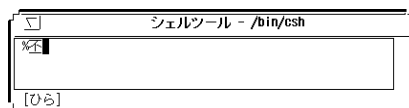
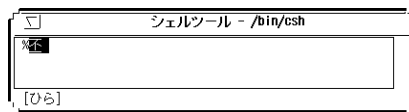
次のように選択した部首
に対応する漢字の候補が
表示されます。



部首の一覧に戻ります。



漢字が選択されます。

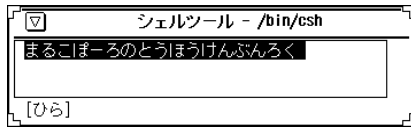




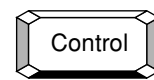
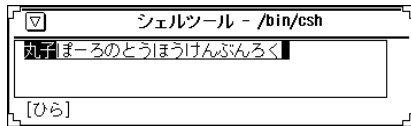
注意 - 端末の設定により『Control キー + V』がすでにある機能に割り当てられていると、部首入力が利用できないことがあります。例えば、`stty -a` の出力の中に `"lnext = ^v;"` という文字列が含まれる場合は、`stty lnext ""` とすると部首入力が利用できます。

フォーカスの範囲の変更

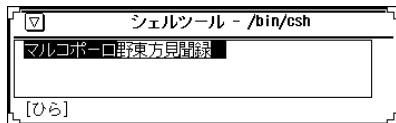
フォーカスの範囲は自動的に指定されますが、変更したい場合にはフォーカスの末尾を調整することができます。フォーカスを 1 文字拡張したい場合は『Control キー + I』を入力します。また、フォーカスを 1 文字縮小したい場合は『Control キー + U』を入力します。



を押して変換します。



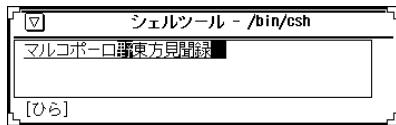
を押してフォーカスを「丸子」から「まるこぼーろ」までひろげ、



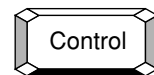
を押した後



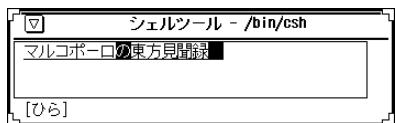
を押して再変換します。



フォーカスを「野」に移動し



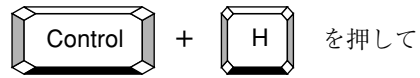
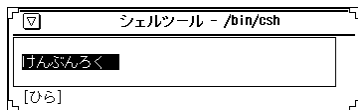
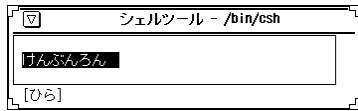
を押した後



を押して再変換します。

入力途中の文字削除

入力途中に文字を削除したい場合は『Control キー + H』、『Del キー』、または『Back Space キー』を入力すると、1文字削除できます。



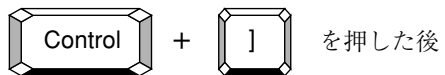
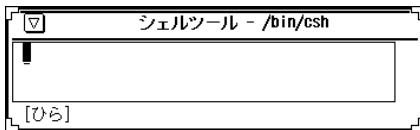
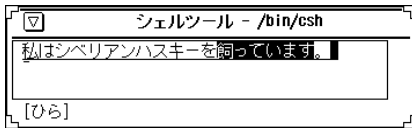
を押して

「ん」を削除します。

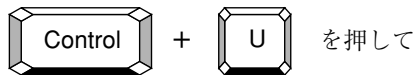
正しい文字を入力します。

未確定文字列の全削除

未確定文字列をすべて削除したい場合は『Control キー +]』 + 『Control キー + U』を入力すると削除できます。



を押した後



を押して

全文削除します。

cs00 の辞書ファイルの管理

この章では、かな漢字変換サーバー cs00 用のかな漢字変換辞書ファイルを管理する方法について説明します。cs00 には、辞書に登録されていない単語の登録、登録されている単語の削除や一覧表示をするための辞書の管理ツールが用意されています。

cs00 の辞書ファイルについて

メイン辞書 (cs00_m.dic)

約 54,000 語の単語が登録されている辞書で、最大約 59,000 語まで登録できます。mdicm コマンドを使用して、単語を登録・削除することができます。mdicm コマンドの詳細は、mdicm(1) のマニュアルページを参照してください。

ユーザー辞書 (cs00_u.dic)

学習の情報や個人的な単語を登録するための辞書で、最大約 4,000 語まで登録できます。cs00 ユーザー辞書ツール (sdtudicm または udicmtool)、または udicm コマンドを使用して、単語を登録・削除することができます。これらのコマンドの詳細は、setudicm(1)、udicmtool(1)、udicm(1) のマニュアルページを参照してください。

注 - sdtudicm コマンドは Solaris CDE 専用の cs00 ユーザー辞書登録ツール、udicmtool コマンドは日本語 OpenWindows 環境専用の cs00 ユーザー辞書ツールです。

注 - cs00 の辞書ファイル (cs00_m.dic、cs00_u.dic) は、Solaris 2.1 より内容に変更はありません。



ユーザー辞書の書き込み許可

注意 - \$HOME/.mle/ja/cs00/cs00_u.dic をユーザー辞書として使用していて、そのホームディレクトリを複数のマシン上で利用する場合、利用するマシンから cs00 の root 権限で、ユーザー辞書への書き込みができないと、cs00 の動作は保証されません。cs00 ユーザー辞書登録ツールの「利用中の辞書」に対する操作の際や、学習機能を利用する際に、コアダンプなどの問題が生じることがあります。

なお、cs00setup(1) によりユーザー辞書ファイルをホームディレクトリに配置した場合は、cs00setup(1) が辞書ファイルのアクセス権を 666 (-rw-rw-rw-) に自動的に設定するため、この問題は発生しません。

このような問題を回避するために、ユーザー辞書への書き込みを許可する手順を 2 種類説明します。

- root 権限での書き込み権なしで、ユーザー辞書のあるホームディレクトリを他のマシンからマウントしている場合

1. ユーザー辞書への書き込みをすべてのユーザーに対して許可します。

```
sun% /usr/bin/chmod 666 $HOME/.mle/ja/cs00/cs00_u.dic
```

2. ls コマンドを実行します。

```
sun% /usr/bin/ls -l $HOME/.mle/ja/cs00/cs00_u.dic
```

実行結果を見て、cs00_u.dic ファイルのアクセス権が 666 (-rw-rw-rw-) であることを確認してください。

- root 権限での書き込み権を付けて、ユーザー辞書のあるホームディレクトリを他のマシンからマウントする場合



注意 - この手順に従うと、ホームディレクトリの下にある辞書以外のファイルに対しても、他のマシンからの root 権限による書き込みが可能になります。

1. ホームディレクトリを他のマシンでマウントする際に、**root** 権限による書き込みを可能にします。次のようにマシン名を想定します。
 - ユーザーのホームディレクトリの実体が存在するマシン : hostA
 - hostA 以外で、cs00 を利用したいマシン : hostB、hostC
2. vi などのエディタで /etc/dfs/dfstab の以下の 1 行に「**root=hostB:hostC**」を追加します。この作業は **hostA** 上でスーパーユーザーとしてログインして行ってください。

```
share -F nfs -o rw=hostB:hostC,root=hostB:hostC /home
```

3. shareall コマンドを実行します。

```
hostA# shareall
```

注 - udicm、mdicm コマンドは、ja ロケールで利用してください。

メイン辞書 (cs00_m.dic) の編集方法

制限数を超えて単語を登録する

メイン辞書では、同じ読みに対して単語部に登録できる単語数は、最大 63 文字です。この制限により、単語の読みによってはメイン辞書に登録できないことがあります。この問題を回避する簡単な方法は、読みを変えて登録することですが、別の方法で登録することもできます。読みを変えずに登録するには、メイン辞書を再構

築し、単語部の領域を空ける必要があります。次にその手順を示します。ただし、漢字部の領域に余裕がない場合は、この手順は適用できません。

例: 読み「い」の単語が登録できなかった場合

1. mdicm の extract コマンドを使用してメイン辞書を展開し、自立語ファイルを作成します。
2. 手順 1 で作成された自立語ファイルを編集して、「い」の読みを持つ単語部に登録されている単漢字を漢字部に移動します。
3. mdicm の create コマンドを使用してメイン辞書を再構築します。



注意 - メイン辞書を再構築すると、それまで使っていたユーザー辞書は使えなくなります。メイン辞書と同時に作成されるユーザー辞書をコピーして使用するか、ユーザー辞書を再構築してください。

ユーザー辞書 (cs00_u.dic) の編集方法

かな漢字変換ユーザー辞書管理ツール

このツールの使用方法については、udicm(1) のマニュアルページを参照してください。

cs00 ユーザー辞書ツール

このツールは GUI を備えており、Solaris CDE、日本語 OpenWindows 環境で使用できます。使用方法については、69ページの「cs00 ユーザー辞書ツールの使用方法」、または sdtudicm(1)、udicmtool(1) のマニュアルページを参照してください。

登録できる読み

ユーザー辞書に登録できる読みは、EUC 補助コードセット 1 で定義されているひらがな 12 文字です。ただし、「だ」「ば」のような濁音・半濁音は 2 文字とし

てカウントしてください。また、先頭の文字に「ゃ」などの拗音、「ゐ」「ゑ」「を」「ん」を使うことはできません。2文字目以降には、すべてのひらがな文字に加えて長音「ー」を使用することができます。

登録できる単語

辞書に登録できる単語は、日本語 EUC コードセット 1、3 で定義されている文字で最大 8 文字です。ただし、コードセット 3 文字は 1 文字で、2 文字として扱います。

注 - 日本語 EUC コードセット 1、3 に定義されている文字を表示する方法については、`dumpcs(1)` のマニュアルページを参照してください。

cs00 ユーザー辞書ツールの使用方法

cs00 ユーザー辞書ツールの起動方法と対象辞書

起動方法

■ Solaris CDE の場合

アプリケーションマネージャから「cs00 ユーザ辞書ツール」を選択するか、次のようにシェルツールまたはコマンドツールからコマンドを入力します。

```
sun% /dt/bin/sdtudicm &
```

■ 日本語 OpenWindows 環境の場合

ワークスペースメニューから「辞書登録ツール」を選択するか、次のようにシェルツールまたはコマンドツールからコマンドを入力します。

```
sun% /usr/openwin/bin/udicmtool &
```

対象辞書

cs00 ユーザー辞書ツールを起動する際に、編集するユーザー辞書とメイン辞書が存在するディレクトリを、コマンド行の引数として指定することができます。たとえ

ば、\$HOME/jisho というディレクトリの下に辞書関連ファイルがある場合は、環境に応じて次のように入力します。

Solaris CDE の場合:

```
sun% /dt/bin/sdtudicm $HOME/jisho &
```

日本語 OpenWindows 環境の場合:

```
sun% /usr/openwin/bin/udicmtool $HOME/jisho &
```



注意 - 辞書のあるディレクトリをコマンド行の引数として指定する場合、そのディレクトリには ja/cs00/cs00_m.dic (メイン辞書)、または ja/cs00/cs00_u.dic (ユーザー辞書) が必要です。

辞書登録ツールのベースウィンドウとアイコン

辞書登録ツールを起動すると、図 4-1 に示すベースウィンドウが表示されます。

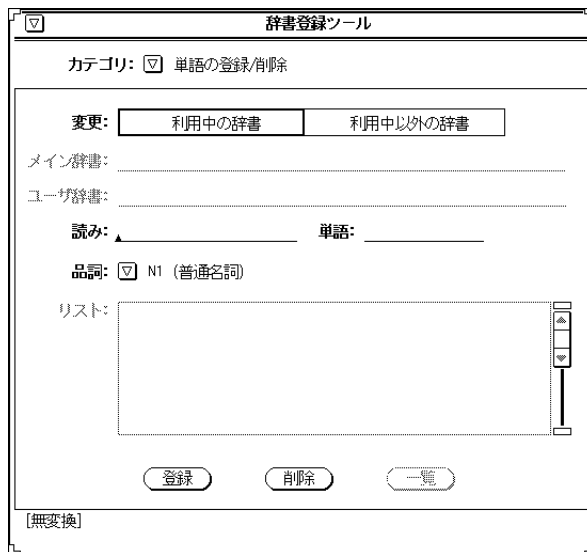


図 4-1 辞書登録ツールのベースウィンドウ

辞書登録ツールのアイコンは、図 4-2 のように表示されます。



図 4-2 辞書登録ツールのアイコン

辞書登録ツールの主な機能

辞書登録ツールの機能は、主に次の3つです。

- 単語の登録・削除を行う
- 利用中以外の辞書を編集対象として選択する
- テキストファイルを編集する

これらの機能を使用するには、ベースウィンドウの左上にある「カテゴリ」から、次の項目のうち該当するものを選択します。

- 「単語の登録／削除」

単語の登録または削除を行います。編集対象となる辞書は、現在サーバーに読み込まれている「利用中の辞書」か、ユーザーが指定した辞書「利用中以外の辞書」です。「利用中の辞書」に対して行なった編集は、文字の変換結果にただちに反映されます。「利用中以外の辞書」に対して行なった編集は、一覧表示することができます。

- 「利用中以外の辞書編集」

ユーザーが指定した辞書を編集します。「利用中以外の辞書」に対して行なった編集は、cs00が参照している辞書を編集した辞書で置き換えてcs00を起動し直さない限り、文字の変換結果に反映されません。

- 「テキストファイルの編集」

辞書を一括で処理するためのテキストファイルの編集と辞書の編集をします。

単語の登録／削除

ベースウィンドウの左上のカテゴリから「単語の登録／削除」を選択すると、単語の登録または削除を行うための画面が表示されます。

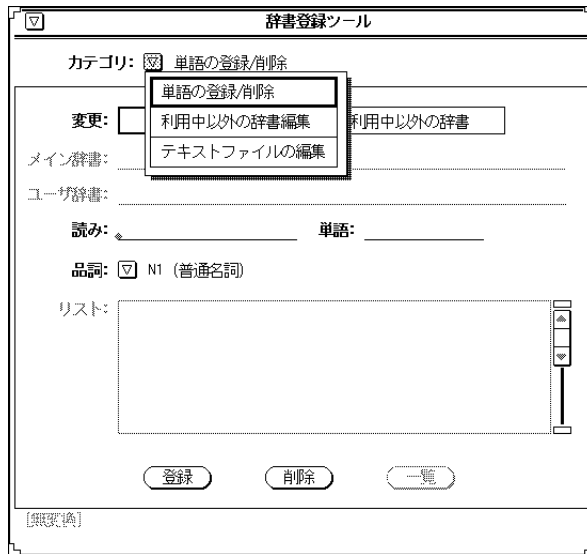


図 4-3 「単語の登録／削除」を選択

変更

「変更」で「利用中の辞書」を選択すると、かな漢字変換サーバーが現在参照している辞書に対して単語の登録または削除を行うモードになります。

「利用中以外の辞書」を選択すると、現在利用していない辞書形式のファイルに対して登録や削除を行うモードになります。このモードでは、図 4-5 で示すように「メイン辞書」と「ユーザー辞書」のテキストフィールド、「リスト」スクローリングリスト、「一覧」ボタンが使用可能になります。

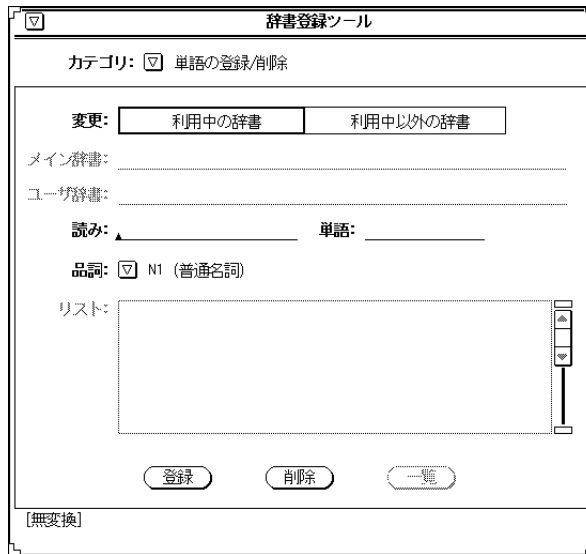


図 4-4 「利用中の辞書」を選択

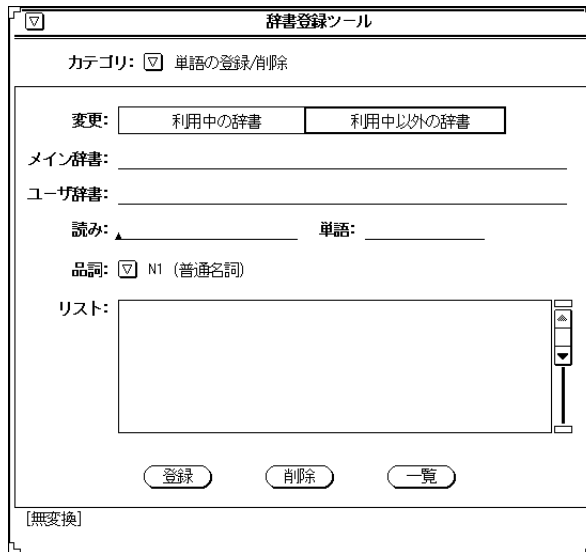


図 4-5 「利用中以外の辞書」を選択

メイン辞書

「変更」で「利用中以外の辞書」を選択すると、この「メイン辞書」のテキストフィールドが使用可能になります。利用中以外の辞書に対して「単語の登録/削除」機能を使用する場合、このフィールドでユーザー辞書に対応するメイン辞書を

指定します。辞書登録ツールの引数として辞書を指定した場合は、そのメイン辞書名が表示されています。

ユーザー辞書

「変更」で「利用中以外の辞書」を選択すると、この「ユーザー辞書」テキストフィールドが使用可能になります。利用中以外の辞書に対して「単語の登録／削除」機能を使用する場合、このフィールドでユーザー辞書を指定します。辞書登録ツールの引数として辞書を指定した場合は、そのユーザー辞書名が表示されています。

読み

登録または削除したい単語の読みを入力します。利用中以外の辞書に対するモードの場合、読みを入力するとその読みにもっと近い読み以降のレコードの一覧が「リスト」に表示されます。読みは、あいうえお順に表示されます。その場合、読みを指定しないで『Return キー』を押すと、その辞書の先頭の読みからすべてのレコードが表示されます。

単語

登録または削除したい単語を入力します。

品詞

簡略メニューボタンをマウスのセレクトボタンで押し、登録したい単語の品詞を選択します。

リスト

「変更」で「利用中以外の辞書」を選択すると、図 4-6 で示すようにスクローリングリストが使用可能になります。リストから削除したいレコードを選択して「削除」ボタンをクリックすると、選択された単語はすべて削除できます。

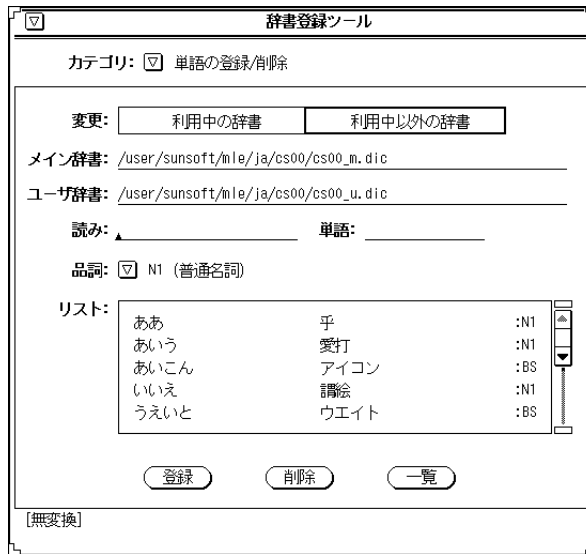


図 4-6 辞書の内容を一覧表示している状態

登録

単語の登録を行います。読み、単語、品詞を指定してこのボタンをクリックすると、その単語が登録されます。利用中の辞書モードの場合、ここで登録した単語は、そのとき稼働している他のアプリケーションに反映されます。

削除

単語の削除を行います。読みと単語を指定してこのボタンをクリックすると、その単語が辞書から削除されます。利用中の辞書モードの場合、ここで削除した結果はそのとき稼働している他のアプリケーションに反映されます。利用中以外の辞書モードの場合、「リスト」の中から選択したレコードを削除することも可能です。



注意 - 指定された単語と読みに複数の品詞が存在する場合でも、すべての品詞が一括削除されます。したがって、削除機能では、品詞の指定は無視されます。

一覧

「利用中以外の辞書」を選択するとこのボタンが使用可能になり、そのときに「読み」フィールドに表示されている読みに最も近い読み以降のレコードをすべて「リスト」に表示します。

利用中以外の辞書編集

ベースウィンドウの左上のカテゴリから「利用中以外の辞書編集」を選択すると、現在利用していない辞書を編集するための画面が表示されます。



図 4-7 「利用中以外の辞書編集」を選択

メイン辞書

編集するユーザー辞書に対応したメイン辞書を指定します。辞書登録ツールの引数として辞書を指定した場合は、そのメイン辞書名が表示されています。

ユーザー辞書

編集するユーザー辞書を指定します。辞書登録ツールの引数として辞書を指定した場合は、そのユーザー辞書名が表示されています。

辞書編集...

「辞書編集...」ボタンをクリックすると、図 4-8 に示すように各辞書の内容を表示したポップアップウィンドウが現われます。

辞書編集用ポップアップウィンドウ

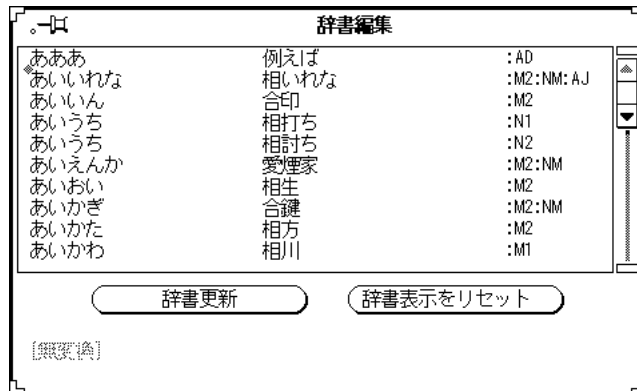


図 4-8 辞書編集用ポップアップウィンドウ

テキスト形式で辞書の内容を表示します。辞書レコードのフォーマットに従って辞書の内容を編集できます。レコードのフォーマットは次の 3 部分からなっています。

読み 単語 : 品詞記号

各データ間は 1 個以上の半角スペース (日本語 EUC コードセット 2 のスペース) またはタブで区切られるものとします。全角スペース (日本語 EUC コードセット 1 のスペース) は区切り記号として機能しません。また、品詞記号の先頭には「:」を付けなければなりません。

■ 辞書更新

編集したテキストの内容で辞書を更新します。

■ 辞書表示をリセット

辞書編集用ポップアップウィンドウのテキストサブウィンドウ内に表示されている内容を、現在の辞書の内容でリセットします。

テキストファイルの編集

ベースウィンドウの左上のカテゴリから「テキストファイルの編集」を選択すると、テキストファイルを編集するための画面が表示されます。

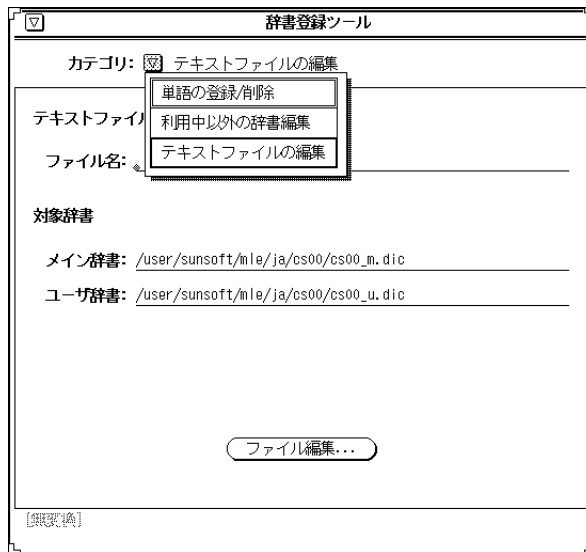


図 4-9 「テキストファイルの編集」を選択

ファイル名

編集するテキストファイルを指定します。

メイン辞書

テキストファイルを辞書に反映する場合に、対象となるユーザー辞書に対応するメイン辞書を指定します。辞書登録ツールの引数として辞書を指定した場合は、そのメイン辞書名が表示されています。

ユーザー辞書

テキストファイルを辞書に反映する場合に、対象となるユーザー辞書を指定します。辞書登録ツールの引数として辞書を指定した場合は、そのユーザー辞書名が表示されています。

ファイル編集...

テキストファイルの内容を表示したポップアップウィンドウを立ち上げます。
「ファイル編集...」ボタンをクリックすると、図 4-10 に示すようなポップアップウィンドウが現われます。

テキストファイル編集用ポップアップウィンドウ

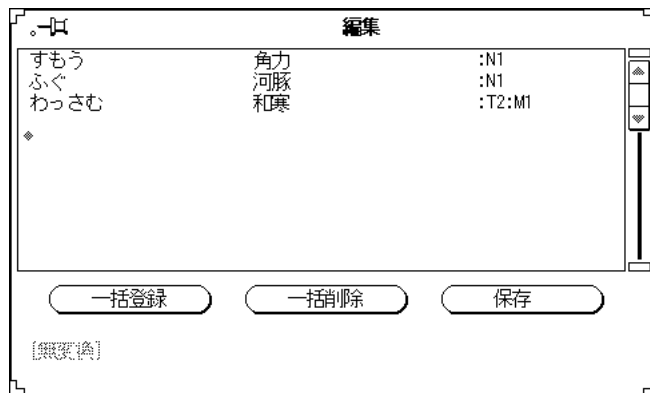


図 4-10 テキストファイル編集用ポップアップウィンドウ

- 一括登録
表示されているテキストファイルの内容を一括して辞書に登録します。
- 一括削除
表示されているテキストファイルの内容を一括して辞書から削除します。
- 保存
表示されているテキストの内容を保存します。

注・テキストファイルの内容は、必ず日本語 EUC を使用してください。

品詞情報

品詞情報の一覧を次に示します。

表 4-1 品詞情報

品詞記号	品詞情報
N1	普通名詞
N2	代名詞
M1	姓
M2	名
T1	地名
T2	都道府県・市区町村
NM	数詞
NN	助数詞
PR	接頭詞
SF	接尾詞
AD	副詞
CN	接続詞
RT	連体詞
AJ	形容詞
AV	形容動詞
SH	サ変動詞
ZH	ザ変動詞
1V	一段動詞
KV	カ行五段動詞
GV	ガ行五段動詞
SV	サ行五段動詞

表 4-1 品詞情報 続く

品詞記号	品詞情報
TV	タ行五段動詞
NV	ナ行五段動詞
BV	バ行五段動詞
MV	マ行五段動詞
RV	ラ行五段動詞
WV	ワ行五段動詞
UN	分類不可
BS	文節

障害解析

対象辞書のエラー

辞書が存在するにもかかわらず辞書登録ツールが正常に動作しない場合には、辞書に対する書き込みが許可されていない場合が考えられます。対象辞書のユーザー辞書に対する書き込みを可能にしてから辞書登録ツールを使用してください。

エラー出力

エラーとなる操作をしたり、エラーとなるデータを登録または削除しようとした場合、ベースウィンドウのフッター部分にそのメッセージが出力されます。

一括登録、一括削除、辞書更新などのように、複数のデータに関するエラーが出力される場合は、図 4-11 のように各テキストサブウィンドウ内にエラーレコードが |><| で表示されます。『Ctrl キー』と『Tab キー』を同時に押すと、訂正対象とする次のエラーレコードに移動できます。

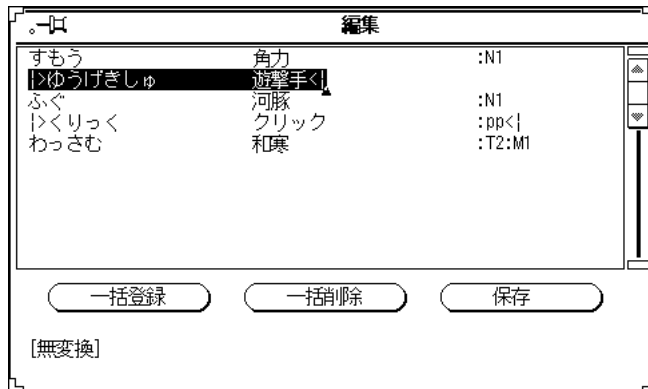


図 4-11 エラー出力

Solaris 2.5.1 以前のリリースで登録したユーザー定義文字の移行

Solaris 2.6 よりユーザー定義文字の領域が変わりました (詳細は、『JFP ユーザーズガイド』を参照してください)。このため、Solaris 2.6 より前のリリースでユーザー辞書にユーザー定義文字を含む単語を登録している場合は、ユーザー辞書への再登録が必要になります。

ユーザー辞書への再登録の手順は、次の通りです。

1. 単語リストファイルの作成

cs00 ユーザー辞書ツールか `udicm` コマンドを使用して、登録した単語を抽出します。

2. 単語リストファイルのコードポイントの変更

`sdtudc_convert` により、1. で抽出した単語リストファイルを変換して新しい単語リストファイルを作成します。

3. ユーザー辞書への登録

cs00 ユーザー辞書ツールか `udicm` コマンドを使用して、2. で作成された単語リストファイルをユーザー辞書に登録します。

文字フォントの移行については、『JFP ユーザーズガイド』を参照してください。`sdtudc_convert` コマンドの使用方法については、`sdtudc_convert(1)` のマニュアルページを参照してください。

入力サーバーの表示スタイルのカスタマイズ

入力サーバー `htt` のプロパティマネージャにより、漢字候補の表示や前編集 (プレエディット。確定前の文字列の編集機能です。通常は反転して表示されます) の表示方法を変更することができます。ここでは、漢字候補の表示とプレエディットの表示のカスタマイズ方法について説明します。

`htt` のアイコンをダブルクリックすると、「Htt プロパティマネージャ」というウィンドウが現れます。



図 5-1 htt のアイコン

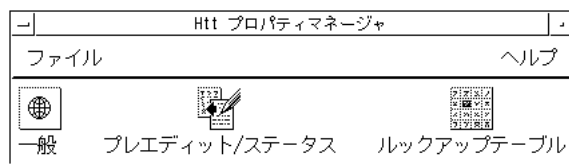


図 5-2 「Htt プロパティマネージャ」ウィンドウ

「プレエディット / ステータス」ウィンドウ

「Htt プロパティマネージャ」ウィンドウの「プレエディット / ステータス」と書かれたアイコンをクリックすると、次の図のような「プレエディット / ステータス」ウィンドウが現れます。

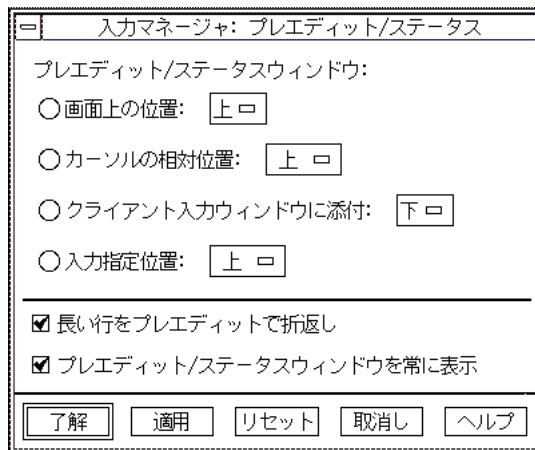


図 5-3 「プレエディット / ステータス」ウィンドウ

このウィンドウでは、プレエディットとステータスの表示方式を設定できます。

注 - このウィンドウでの設定は、プレエディットのスタイルをルートウィンドウスタイルに指定した場合のみ有効です（「長い行をプレエディットで折返し」以外）。`dtterm` の場合、`dtterm -xrm "*preeditType: root"` として起動すると、ルートウィンドウスタイルになります。

画面上の位置

この項目を選択した場合は、次の図のように画面上の位置で表示されます (図 5-4 は、「上」を選択した場合)。

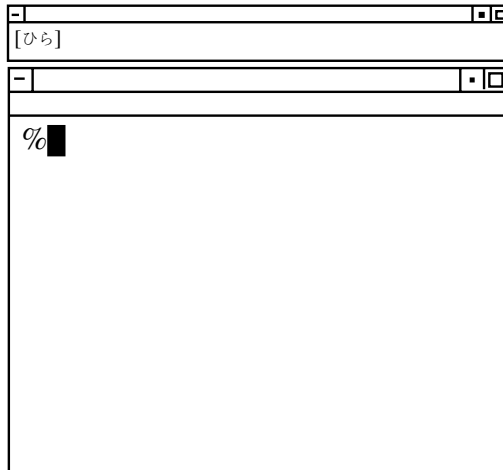


図 5-4 「プレエディット / ステータス」 ウィンドウ : 画面上の位置 (上)

カーソルの相対位置

この項目を選択した場合は、次の図のようにマウスカursorからの相対位置で表示されます (図 5-5 は、「上」を選択した場合)。

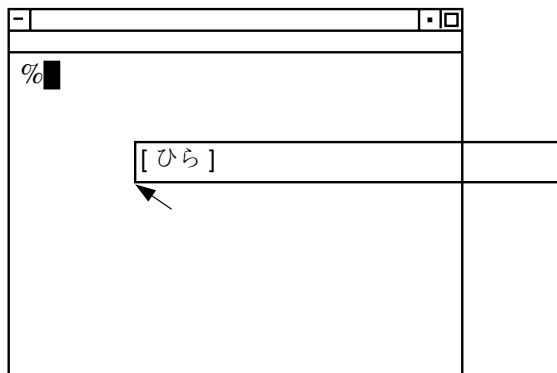


図 5-5 「プレエディット / ステータス」 ウィンドウ : カーソルの位置 (上)

クライアントウィンドウに添付

この項目を選択した場合は、次の図のようにクライアントウィンドウの上か下に表示されます (図 5-6 は、「下」を選択した場合)。

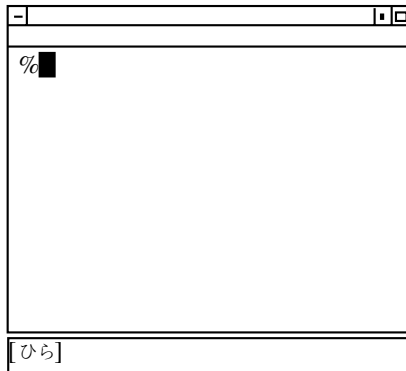


図 5-6 「プレエディット / ステータス」ウィンドウ: クライアント入力ウィンドウに添付 (下)

入力指定位置

この項目は、cs00 を利用している場合効果がありません。

長い行をプレエディットで折返し

この項目を選択すると、図 5-7 のようにプレエディットの文字列が右端に達した場合、下の行に折り返します。

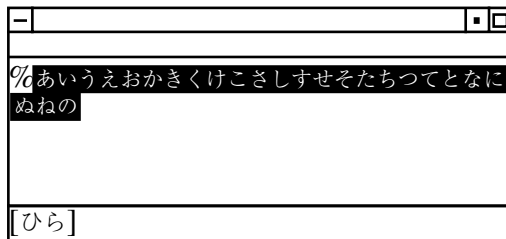
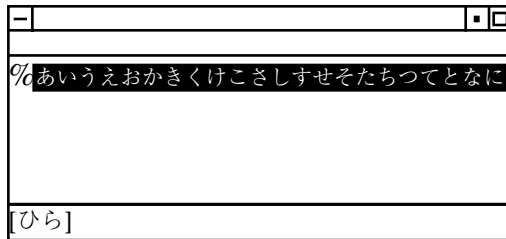


図 5-7 「長い行をプレエディットで折り返し」を設定

この項目の選択を解除すると、図 5-8 のようにプレエディットの文字列が右端に達した場合、プレエディットの左端の文字が画面から消えます。図 5-8 の例では、「あ」が消えています。

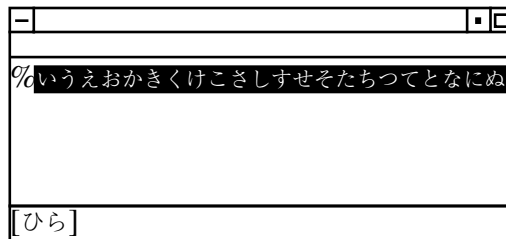
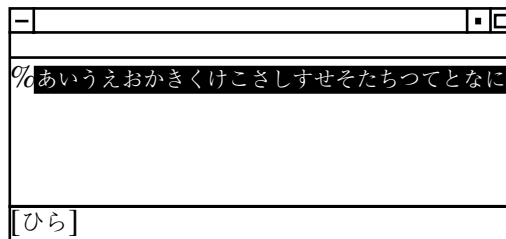


図 5-8 「長い行をプレエディットで折り返し」を解除

プレエディット / ステータスウィンドウを常に表示

この項目を選択すると、日本語がオフになっているとき、プレエディットとステータスを表示するウィンドウが表示されます。

「ルックアップウィンドウ」ウィンドウ

「Htt プロパティマネージャ」ウィンドウの「ルックアップウィンドウ」アイコンをクリックすると、図 5-9 のような「ルックアップウィンドウ」ウィンドウが現れます。

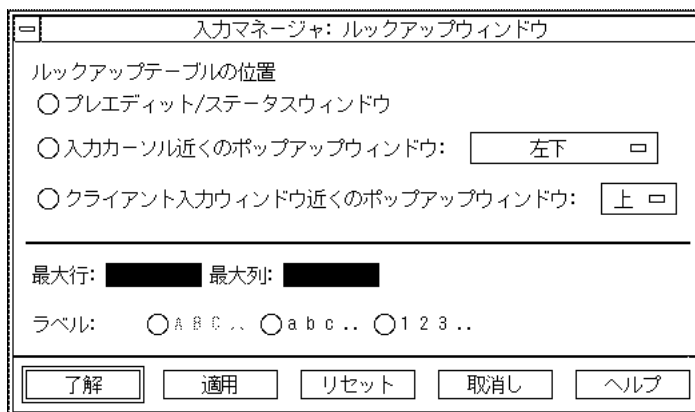


図 5-9 「ルックアップウィンドウ」ウィンドウ

このウィンドウでは、漢字候補一覧(ルックアップウィンドウ)の表示方式を設定できます。

プレエディット / ステータスウィンドウ

この項目を選択した場合は、画面上の「プレエディット/ステータス」ウィンドウに漢字候補が表示されます。表示位置は、「プレエディット / ステータス」ウィンドウの設定で指定した位置になります。

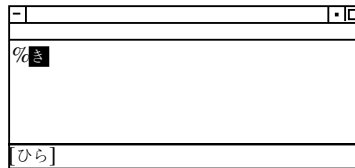
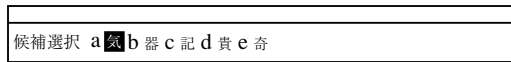


図 5-10 ルックアップテーブルの位置: プレエディット / ステータスウィンドウ

入力カーソル近くのポップアップウィンドウ

この項目を選択した場合は、次の図のようにマウスカーソルの近くに漢字候補を表示するポップアップウィンドウが表示されます (図 5-11 は、「上」を選択した場合)。

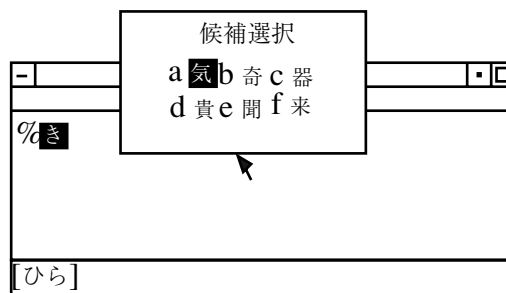


図 5-11 ルックアップテーブルの位置: 入力カーソル近くのポップアップウィンドウ (上)

クライアント入力ウィンドウ近くのポップアップウィンドウ

この項目を選択した場合は、漢字候補を表示するポップアップウィンドウが、クライアントウィンドウからの相対位置に表示されます。

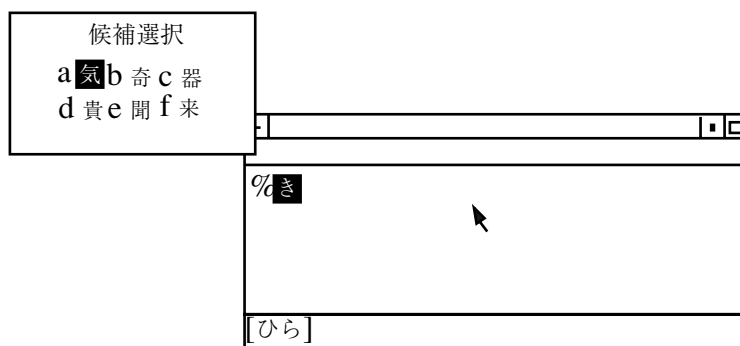


図 5-12 ルックアップテーブルの位置: クライアント入力ウィンドウ近くのポップアップウィンドウ (左上)

最大行 / 最大列

この項目では、一度に表示する漢字候補の数を行と列で指定します。

ラベル

この項目では、漢字候補から漢字を選択するときに利用する「ラベル」の表示方法を指定します。下の図は、ラベルに「123..」を指定した場合の候補選択用ウィンドウです。

候補選択					
01 氣	02 器	03 記	04 貴	05 奇	06 聞
07 来	08 利	09 木	10 機	11 期	12 切
13 紀	14 着	15 聴	16 効	17 帰	18 基
19 黄	20 樹	21 旗	22 忌	23 鬼	24 企

注 - かな漢字変換サーバーインタフェースモジュール xci を使用している場合は、ラベル「ABC...」は使用できないため、ウィンドウ上では選択不可能になっています。

文字コード変換機能のカスタマイズ

この章では、cs00 の文字コード変換機能をカスタマイズする方法を説明します。

文字コード変換定義用ファイル

cs00 は受け取った文字コードに対して、現在の入力モードに応じた変換を行います。変換は、各変換テーブルファイルの変換規則に基づいて行われます。ローマ字かな変換、文字種の相互変換も、この変換機能を利用して行われます。

cs00 で使用するコード変換定義用ファイル名を変更したい場合は、resources ファイルに以下の設定値を追加してください。

1. CC_HR ひらがなモード用
2. CC_KT 全角カタカナモード用
3. CC_HKT 半角カタカナモード用
4. CC_EIS 全角英数モード用
5. CC_HEIS 半角英数モード用

注 - ファイルの位置は `$HOME/.mle/locale/cs00`、または `/etc/mle/locale/cs00` で固定です。ただし、定義ファイル名に相対パスを含めると、位置を変更できます。かな漢字変換サービインタフェースモジュール xci を使用している時のみファイル名を変更できます。

これらのファイルの設定例は以下のとおりです。

```
*xci*cs00.config.CC_HR: my_hiragana.ccv
```

注・文字コード変換定義用ファイルでは、必ず日本語 EUC を使用してください。

文字コード変換定義用ファイルの書式

コード変換テーブル定義用ファイルの書式は次のとおりです。各変換規則は、1 行で構成されています。

< 入力文字列 > < 変換文字列 > < 再評価文字数または s >

再評価文字数は、入力文字列の後ろから再評価する文字数です (省略可能)。再評価文字数には、入力文字列の文字数より小さい値を指定してください。省略した場合は 0 を指定したものとみなします。また、数字のかわりに s を指定した場合は、未決の文字列は変換されません。「未決」とは、入力文字列が複数の規則に一致する可能性がある状態のことをいいます。s を指定した場合は、再評価文字数は指定できません。

次に変換例を示します。

- **kitto** の入力を「きと」に変換する

ki き

to と

tto っ 2

このように定義すると、入力文字列 **kitto** は、まず **ki** に一致するので「き」に変換されます。次に **tto** に一致するので「っ」に変換されます。さらに **tto** の後ろから 2 文字の **to** が再評価されます。これは **to** に一致するので「と」に変換されます。全体として「きと」に変換されます。

これ以外にも、入力文字列 **kitto** から「きと」を得る変換規則が考えられますが、これらの方法には、それぞれ問題点があります。

- 次のように定義すると、**ttttt** が「っっっつ」に変換される

ki き

to と

tt っ 1

- 次のように定義すると、**to** の変換結果を変更する場合に **tto** の変換結果も合わせて変更する必要がある

ki き

to と

tto っ と

- 未決の **n** を変換する

n ん s

na な

ni に

このように定義すると、入力文字列 **n** は **n** に一致しますが、**s** が指定されていて、しかも未決であるため「ん」には変換されません。次に **a** または **i** が入力された場合は、「な」または「に」に変換されます。未決を解決する文字が入力されて初めて **n** は「ん」に変換されます。**s** が指定されていない場合は、**n** は「ん」にいったん変換されますが、次に **a** または **i** が入力されると、「ん」は、「な」または「に」に変わります。

1 行は、改行文字が現れるまでの最大 1024 文字です。# で始まる行はコメント行として扱われます。変換規則のフィールドの区切り記号は、空白またはタブ文字です。

制御文字などを「入力文字列」または「変換文字列」に指定する場合には、表 6-1 に示す拡張記号を使用する必要があります。

表 6-1 制御文字の指定

記号	機能
\n	改行
\r	復帰
\t	タブ
\f	改ページ
\~	空白 (0x20)
\{	(

表 6-1 制御文字の指定 続く

記号	機能
\})
\#	#
\\	\
\^	^
\0	8 進数 (\001, \012)
\1	8 進数 (\100, \123)
\x	2 桁の 16 進数 (\x01, \xff)
\w	4 桁の 16 進数 (\w0101, \wabcd)
\q	8 桁の 16 進数 (\q00000101, \q8000cdab)
\k	区点コード (\k0101, \k1616)

かな漢字変換サーバーインタフェースモジュールのカスタマイズ

この章では、かな漢字変換サーバーインタフェースモジュール `xci` と `cm` のカスタマイズについて説明します。

`xci` のカスタマイズ

`xci` は、ワークスペースメニューから「日本語入力システムの切替」の「`cs00(htt)` に設定」を選択するか、`cs00setup(1)` を実行した時に自動的に設定されるかな漢字変換サーバーインタフェースモジュールです。

`xci` を使用している場合、カスタマイズできるファイルは、変換サーバーとの接続方法やデータ入力キーの機能の割り当てに関連する `resources` ファイルです。以下に、`resources` ファイル、変換テーブルファイルの順にカスタマイズ方法を説明します。

注・日本語入力サーバーのかな漢字変換サーバーインタフェースモジュールに関する設定については、`htt(1)` のマニュアルページを参照してください。

検索順序

カスタマイズに使用されるファイルは、次の順で検索され、先に見つかったファイルが有効となります。

1. `$MLEPATH/locale/cs00`
2. `$HOME/.mle/locale/cs00`
3. `/etc/mle/locale/cs00`

注 - `locale` には、ロケール名が入ります。cs00 の場合、`ja` または `japanese` が有効です。

resources ファイルの設定

`resources` ファイルは、変換サーバーとの接続方法を指定する変換サーバーのセッションがオープンされるときに、参照するデータ入力キーに機能を割り当てるなど、さまざまなカスタマイズを行うファイルです。このファイルは、`/etc/mle/locale/cs00` にあります。

カスタマイズを行う場合は通常、次の手順に従います。

1. 各自のホームディレクトリに `.mle/locale/cs00` というディレクトリを作成します。このディレクトリは、`cs00setup(1)` を実行すると自動的に作成されます。

```
sun% cd
sun% mkdir -p .mle/locale/cs00
```

2. ファイルをコピーします。

```
sun% cp /etc/mle/locale/cs00/resources ~/.mle/locale/cs00/resources
```

3. コピー先の `~/.mle/locale/cs00/resources` を編集します。

環境変数 `MLEPATH` を設定している場合は、上記 1. から 3. の手順にあるすべての `~/.mle` を `$MLEPATH` の内容に置き換えてカスタマイズすることもできます。



注意 - システムを使用しているユーザー全員の環境をカスタマイズする場合は、`/etc/mle/locale/cs00` にあるファイルを直接修正してください。`/etc/mle/locale/cs00` にあるファイルはオリジナルです。修正前にコピーするなどして、取り扱いには十分に気をつけてください。個人で使用する場合は、必ず `$HOME/.mle/locale/cs00` を使用してください。

修正した `resources` の内容は、次に開始される入力セッションから反映されます。

resources ファイルのカスタマイズ例

キー割り当てのカスタマイズ

次に `resources` ファイルのキー割り当ての変更方法を以下に示します。

例 7-1 `resources` ファイルの内容 (抜粋)

```
!  
*xci*cs00.bind* preedit.init:      \  
    Ctrl <Key> space:      CNV_SWITCH() \n\  
    Ctrl <Key> at:      CNV_SWITCH() \n\  
    Ctrl <Key> o:      IM_KANJI() VIM_HIRA() \n\  
    Ctrl <Key> r:      IM_KANJI() VIM_HANALPHA() \n\  
    Ctrl <Key> t:      IM_KANJI() VIM_ZENALPHA() \n\  
    Ctrl <Key> q:      IM_CODE() \n\  
    Ctrl <Key> y:      IM_KANJI() VIM_ZENKANA() \n\  
    Ctrl <Key> z:      IM_KANJI() VIM_HANKANA() \n\  
    .  
*xci*cs00.bind*preedit.edit:      \  
    <Key> BackSpace:      ERASE_LCHAR() \n\  
    :<Key> Delete:      ERASE_LCHAR() \n\  
    <Key> Escape:      CS00_ESC_OFF() \n\  
    :<Key> R9:      CNV_PREV() \n\  
    :<Key> R15:      CNV_NEXT() \n\  
    .
```

`resources` ファイルのキー割り当てに関する記述には、各入力の状態ごとに入力キーイベントに関する記述 (以降、「入力キー」と記述) と「その入力キーに割り当てられた機能」 (以降、「機能」と記述) が書かれています。ある機能を実行するた

めに使用されるキーが好ましくない場合、入力キーを変更することによって、キー割り当てをカスタマイズすることができます。次に、入力の状態とキーの割り当てについて説明します。

注・日本語オン・オフキーの割り当てを変更する場合は、日本語入力サーバー `htt` の設定と `resources` ファイル両方の設定の変更が必要です。`htt` の設定の詳細は、`htt(1)` のマニュアルページを参照してください。

入力の状態 (リソース)

現在用意されている入力の状態は次のとおりです。

表 7-1 リソース名一覧

入力の状態 (リソース名)	状態説明
<code>*xci.locale.cs00.bind.preedit.init</code>	通常の文字入力状態。まだ文字が入力されていない状態
<code>*xci.locale.cs00.bind.preedit.edit</code>	通常の文字入力状態。文字が入力されているが、変換がされていない状態
<code>*xci.locale.cs00.bind.preedit.conv</code>	通常の文字入力状態。変換が開始されている
<code>*xci.locale.cs00.bind.lookup.init</code>	候補一括表示。まだ候補が選択されていない
<code>*xci.locale.cs00.bind.lookup.choice</code>	候補一括表示。いずれかの候補が選択されている

上記のリソース名は、それぞれ 1 つの内部状態を表します。入力の状態ごとに、キー割り当てがそれぞれ記述されます。詳細は `xci(7)` のマニュアルページを参照してください。

キー割り当て

キー割り当ての記述は以下の形式で行われます。

入力キー： 機能 \n

```
例：  
Ctrl <Key> space: CNV_SWITCH() \n
```

入力キーの条件を満たすキー入力が行われると、該当する機能が働きます。この入力キーの記述を変更することによって、より操作しやすくなります。

入力キーの記述は以下の形式で行われます。

1. None <Key> 代替キー名
2. 修飾子リスト <Key> 代替キー名

```
例：  
None <Key> Delete:  
Ctrl <Key> space:
```

修飾子と代替キーの条件が両方とも満たされた場合に、入力キーの条件が満たされます。

複数のキー入力に対して機能を割り当てる場合は、上記の 1. または 2. をカンマ「,」で区切って複数記述してください(後述の入力キーの記述例の 4. を参照)。

■ 修飾子に関する条件

■ 「None」が指定される場合

修飾子がまったく機能していない場合に条件が満たされます。

■ 修飾子リストを指定する場合

修飾子名をそのまま記述した場合はその修飾子が機能していることが条件になります。修飾子名の先頭に「~」を付けた場合はその修飾子が機能していないことが条件になります。次の修飾子名を使用できます。

Ctrl、Shift、Lock、Meta、Alt、Mod1、Mod2、Mod3、Mod4、Mod5

修飾子を複数指定する場合は、空白で区切ってください。ただし、その場合は AND (論理積) とみなされます(後述の入力キー記述例の 2. を参照)。

また、修飾子を指定しなくてもかまいません。その場合、修飾子の条件は常に満たされます。

修飾子リストの先頭に次の指定を行うことができます。

・ 「:」

同じキーに割り当てられている他の代替キーに対するバインディングとは区別して取り扱われます。

・ 「!」

明示的に指定された修飾子以外は、すべて機能していない状態であればなりません。この指定がない場合は、明示的に指定されていない修飾子の状態は無視されます。

■ 代替キー名に関する条件

入力として与えられる代替キーがこの部分に書かれた代替キーと一致する場合、条件が満たされます。

次に入力キーの記述例を挙げます。

1. 『CTRL キー』を押した状態で 『A キー』を押す操作

```
Ctrl <Key> A
```

2. 『CTRL キー』と 『Shift キー』を両方押した状態で 『BackSpace キー』を押す操作

```
Ctrl Shift <Key> BackSpace
```

3. 『CTRL キー』を押しているが、 『Shift キー』は押していない状態で 『BackSpace キー』を押す操作

```
Ctrl ~Shift <Key> BackSpace
```

4. 『CTRL キー』を押した状態で 『A キー』を押し、続いて 『CTRL キー』を押した状態で 『B キー』を押す操作

```
Ctrl <Key> A, Ctrl <Key> B
```

5. 『CTRL キー』を押した状態で 『A キー』または 『B キー』を押す操作

```
Ctrl <Key> A :  
Ctrl <Key> B :
```

6. 大文字を入力するような場合 (通常、『Shift キー』を押している場合や『Caps Lock キー』をロックしている場合) に『A キー』を押す操作

```
:<Key> A
```

7. 『Shift キー』を押し、他の修飾子キーが機能していない状態で『A キー』を押す操作

```
! Shift <Key> A
```

注・resources ファイルのキー割り当てに関する記述には前後関係があり、同じ入力キーに対する指定が複数ある場合、最初に記述されている内容が有効になります。この前後関係は、リソース (各リージョンまたはフィールド内のある状態に対する指定) 単位で有効です。

変換サーバーの初期設定

初期設定値をカスタマイズする方法について説明します。

初期設定の記述方法は次のとおりです。

* `xci.locale.cs00.config.NAME: value`

NAME は設定項目名で、value は設定値となります。以下に設定項目名と設定値の例を示します。

設定項目名	設定値
I	1: かな漢入力 3: コード入力
S	0: 学習 off 1: 学習 on
VIM	1: 全角ひらがなモード [ひら] 2: 全角カタカナモード [カタ] 3: 半角カタカナモード [カタ] 4: 全角英数モード [A] 5: 半角英数モード [A]

次の記述は、設定項目名の S を「学習 off」に設定した場合の例です。

例
*xci*cs00.config.S: 0

cm のカスタマイズ

cm を使用するための設定

cm かな漢字サーバーインタフェースモジュールを使用するには、次の作業が必要です。

1. まず `cs00setup(1)` を実行してください。

2. `$HOME/.dtprofile` を編集します。

次の記述を変更します。

変更前：

```

#
###==- Generated by cs00setup to launch XIM for Japanese. == BEGIN
== -==###
# Launch X Input Method Server in this area.
# You can modify contents of this area. But if you execute
# setup command of XIMS, this area will be overwritten.
# Please DO NOT delete the line includes "== BEGIN ==" or "== END
==" in
# this area.
# Launch the X Input Method Server.
if [ "_$DTSTARTIMS" = "_True" ]; then
    _sunximswm="dtwm"
    _file=/usr/openwin/lib/locale/$LANG/imsscript/S599cs00
    if [ -f $_file ]; then
        . $_file
    fi
    unset _sunximswm _file
fi
###==- Generated by cs00setup to launch XIM for Japanese. == END
== -==###

```

変更後：

```

#
###==- Generated by cs00setup to launch XIM for Japanese. == BEGIN
== -==###
# Launch X Input Method Server in this area.
# You can modify contents of this area. But if you execute
# setup command of XIMS, this area will be overwritten.
# Please DO NOT delete the line includes "== BEGIN ==" or "== END
==" in
# this area.
# Launch the X Input Method Server.
if [ "_$DTSTARTIMS" = "_True" ]; then
    LC_ALL=ja \
        XFILESEARCHPATH=/usr/openwin/lib/locale/ja/%T/%N%S \
        /usr/openwin/bin/htt -if cm -nosm -lc_basiclocale ja &
    unset DTSTARTIMS
fi
###==- Generated by cs00setup to launch XIM for Japanese. == END
== -==###

```

3. \$HOME/.openwin-init を編集します。

変更前：

```

...toolwait /usr/openwin/bin/htt -if xci -lc_basiclocale ja

```

変更後：

```
...toolwait /usr/openwin/bin/htt -if cm -lc_basiclocale ja
```

設定した内容は、次にログインした時から有効になります。

注 - `wnn6setup(1)`、`atok8setup(1)`、`cs00setup(1)` を実行したり、ワークスペースメニューから日本語入力システムを切り替えたりすると、これらの設定は無効になります。

`cm` かな漢字変換サーバーインタフェースモジュールを使用している場合、カスタマイズできるファイルは、変換サーバーとの接続方法やデータ入力キーの機能の割り当てなどに関連する 4 つのファイルです。以下にその 4 つのファイルのカスタマイズ方法を説明します。

注 - `cm` かな漢字変換サーバーインタフェースモジュールは、SPARC のみ利用できます。

注 - `libmle` と `cs00` を用いた日本語入力では、`libmle` を使う 1 プロセスについて利用できる変換セッションの数は最大 512 個となります。したがって、`cm` かな漢字変換サーバーインタフェースモジュールを使用すると、変換セッション数は最大 512 個となります。ただし、メモリー不足などの原因により 512 個利用できない場合があります。

変換サーバーとの接続方法やデータ入力キーの機能の割り当てなど、カスタマイズできるファイルは、次の 4 つです。

■ `cstab`

使用可能な変換サーバーの名称と ID 番号の対応を定義するファイルです。

■ `csdef`

変換サーバーとの接続方法を指定するファイルです。

■ `config`

変換サーバーのセッションがオープンされるときに参照するファイルです。

■ `keybind`

入力キーに機能を割り当てるファイルです。

`cstab` を除く 3 つのファイルは、`/etc/mle/locale/cs00` にデフォルトのデータがあります。また、`cstab` は、`/etc/mle/locale` にあります。

注 - *locale* には、ロケール名が入ります。cs00 の場合、ja または japanese が有効です。

カスタマイズを行う場合、一般的なカスタマイズとシステムごとのカスタマイズの 2 通りがあります。

一般的なカスタマイズ方法は以下のとおりです。

1. 各自のホームディレクトリの下に *.mle/locale/cs00* というディレクトリを作成します。このディレクトリは、*cs00setup(1)* を実行すると自動的に作成されます。

```
sun% cd
sun% mkdir -p .mle/locale/cs00
```

2. 修正したいファイルをコピーします。

```
sun% cp /etc/mle/locale/cs00/filename ~/.mle/locale/cs00/filename
```

cstab の場合は、以下のようになります。

```
sun% cp /etc/mle/locale/cstab ~/.mle/locale/cstab
```

3. コピーされたファイルを編集します。

また、上記 1.~3. の手順の代わりに以下のコマンドを実行することにより、環境変数 *MLEPATH* を使用して設定する方法もあります。

```
sun% setenv MLEPATH dir
```

dir をカスタマイズしたいファイルがあるディレクトリ名 (フルパス名) で置き換えてください。

システムごとにカスタマイズする場合は、*/etc/mle/locale/cs00/filename* または、*/etc/mle/locale/cstab* を直接修正してください。

注 - `/etc/mle/locale` にあるファイルはオリジナルです。修正前にコピーをするなどして取り扱いには十分に気をつけてください。また、このディレクトリにあるファイルを修正すると、システムを使用しているユーザー全員に影響します。個人で使用する場合は、`$MLEPATH/locale` または `$HOME/.mle/locale` を使用してください。

検索順序

カスタマイズに使用されるファイルは、次の順で検索され、先に見つかったファイルが有効となります。

1. `$MLEPATH/locale/`
2. `$HOME/.mle/locale/`
3. `/etc/mle/locale`

カスタマイズの例

keybind ファイルのカスタマイズ

ファンクションキーのキー割り当てをカスタマイズする方法について説明します。

キー割り当てのデフォルトのファイルは、`/etc/mle/locale/cs00/keybind` です。

keybind ファイルの代表的なファンクションキーについて、キー割り当てを変更する例を示します。

例 7-2 keybind ファイルの内容 (抜粋)

```
#
# Copyright (c) 1991 by Sun Microsystems, Inc.
#
#
#
#
^b I { C : FOCUS_PREV} # ctrl-b
^f I { C : FOCUS_NEXT} # ctrl-f
^h I { E : ERASE_LCHAR} # ctrl-h
^i I { C : FOCUS_LONG} # ctrl-i
^k I { E,C : KAKUTEI};\ # ctrl-k
* { I,C : SELECT_DONE}
^n I { E: CNV_HENKAN ;\ # ctrl-n
    C: CNV_NEXT};\
S { I,C : SELECT_NEXT}
^p I { E,C : CNV_PREV};\ # ctrl-p
S { I,C : SELECT_PREV}
^u I { C : FOCUS_SHORT} # ctrl-u
```

keybind ファイルには、「入力キー」と「そのキーに割り当てられた機能」(以下「機能」とします)が書かれています。上記の例では、行頭の ^b が入力キーを、それ以降の記述が設定される「機能」を示します。

ある機能がユーザーにとって好ましくない場合、入力キーを差し替えることによって、キー割り当てをカスタマイズすることができます。たとえば、^K の確定操作を ^N の操作と入れ替えて操作をしたいとします。その場合、入力キーの ^K と ^N を入れ替えてください。この作業は、vi などのテキストエディタで容易に変更できます。

カスタマイズ作業を行う場合は、ファイルを /etc/mle/locale/cs00/keybind から \$HOME/.mle/locale/cs00/keybind にコピーして、そこで編集します。

また、環境変数 MLEPATH を設定している場合は、/etc/mle/locale/cs00/keybind から \$MLEPATH/locale/cs00/keybind にコピーして、そこで編集することもできます。



注意 - /etc/mle/locale/keybind を変更するとシステムのユーザー全員に影響するため注意が必要です。

修正した keybind の内容は、次に開始される入力セッションから反映されます。

mle コマンドを使用して上記のカスタマイズ作業を行う場合は、keybind ファイル内の後半にある \x で始まる行を修正してください。

```

\x08    I    { E    : ERASE_LCHAR }    # ctrl-h
\x0b    I    { E,C   : KAKUTEI   } ; \  # ctrl-k
*       { I,C   : SELECT_DONE }

```

変換サーバーの初期設定

変換サーバーの初期設定は config ファイルをカスタマイズすることにより行われます。config ファイルをカスタマイズする方法について説明します。config で設定可能な設定項目は変換サーバーによって異なります。

config ファイルのデフォルトのファイルは、`/etc/mle/locale/cs00/config` です。

初期設定の記述方法は以下のとおりです。

```
NAME = value
```

NAME は設定項目名で、value は設定値となります。以下に設定項目名と設定値の例を示します。ここでは cs00 を例とします (設定項目名は変換サーバーによって異なります)。

設定項目名	設定値
I	1: かな漢入力 3: コード入力
S	0: 学習 off 1: 学習 on
VIM	1: 全角ひらがなモード [ひら] 2: 全角カタカナモード [カタ] 3: 半角カタカナモード [カタ] 4: 全角英数モード [A] 5: 半角英数モード [A]

以下の内容は、config ファイルで設定項目名の S を「学習 off」に設定した場合の例です。

```
#  
#   Default Data for Convert Engine  
#  
S = 0
```


cs00 の起動

cs00 はシステムをインストールすることによって、使用が可能となります。cs00 を標準の設定で使用する場合、設定作業は必要ありません。

再起動方法

cs00 は `cssd(1M)` の管理下で動作しているため、cs00 が終了すると `cssd(1M)` は、自動的に cs00 を再起動します。cs00 の詳細は、`cssd(1M)` のマニュアルページを参照してください。

次のようにすると cs00 を再起動することができます。

```
% su
Passwd:
# kill <cs00 のプロセス ID>
```

自動起動の抑止

cs00 は、`cssd(1M)` の管理下で動作します。cs00 をシステムのブート時に自動的に起動しないようにするには、`cssd(1M)` の参照する cs 起動スクリプト `/usr/lib/css.d/cs00.sh` を削除します。`cssd` の詳細は、`cssd(1M)` のマニュアルページを参照してください。

ローマ字のつづり方

ローマ字のつづり方

ローマ字かな変換で使用するつづり方の一覧表です。

表 A-1 ローマ字かな変換対応表

	a	i	u	e	o
.	あア	いイ	うウ	えエ	おオ
k	かカ	きキ	くク	けケ	こコ
s	さサ	しシ	すス	せセ	そソ
t	たタ	ちチ	つツ	てテ	とト
n	なナ	にニ	ぬヌ	ねネ	のノ
h	はハ	ひヒ	ふフ	へヘ	ほホ
m	まマ	みミ	むム	めメ	もモ
y	やヤ	いイ	ゆユ	いえイエ	よヨ
r	らラ	りリ	るル	れレ	ろロ
w	わワ	ういウイ	うウ	うえウエ	をヲ

表 A-1 ローマ字かな変換対応表 続く

	a	i	u	e	o
g	がガ	ぎギ	ぐグ	げゲ	ごゴ
z	ざザ	じジ	ずズ	ぜゼ	ぞゾ
d	だダ	ぢヂ	づヅ	でデ	どド
b	ばバ	びビ	ぶブ	べベ	ぼボ
p	ぱパ	ぴピ	ぷプ	ぺペ	ぽポ
ky	きゃキヤ		きゅキユ		きょキョ
sy	しゃシャ		しゅシュ	しゅシェ	しゅショ
ty	ちゃチャ		ちゅチュ	ちゅチェ	ちゅチョ
ny	にゃニヤ		にゅニユ		にゅニョ
hy	ひゃヒヤ		ひゅヒユ		ひゅヒョ
my	みゃミヤ		みゅミユ		みゅミョ
ry	りゃリヤ		りゅリュ		りゅリョ
gy	ぎゃギヤ		ぎゅギユ		ぎゅギョ
zy	じゃジャ		じゅジュ	じゅジェ	じゅジョ
dy	ぢゃヂヤ		ぢゅヂユ		ぢゅヂョ
by	びゃビヤ		びゅビユ		びゅビョ
py	ぴゃピヤ		ぴゅピユ		ぴゅピョ
fy		ふいフィ	ふゅフユ	ふゅフェ	
vy		ぶい ヴイ	ぶゅヴユ	ぶゅヴェ	
kw	くわクワ	くいクイ		くゅクェ	くおクオ
gw	ぐわグワ				

表 A-1 ローマ字かな変換対応表 続く

	a	i	u	e	o
sw		すい スイ		すえ スエ	
tw			とう トウ		
dw			どう ドウ		
sh	しゃ シャ	し シ	しゅ シュ	しえ シエ	しょ ショ
ch	ちゃ チャ	ち チ	ちゅ チュ	ちえ チエ	ちょ チョ
ts	つあ ツア		つ ツ	つえ ツエ	つお ツオ
th		てい テイ	てゅ テュ		
dh		でい デイ	でゅ デュ		
j	じゃ ジャ	じ ジ	じゅ ジュ	じえ ジエ	じょ ジョ
q	くあ クア	くい クイ	く ク	くえ クエ	くお クオ
f	ふあ ファ	ふい ファイ	ふ フ	ふえ フェ	ふお フオ
v	ぶあ ヴア	ぶい ヴイ	ぶ ヴ	ぶえ ヴエ	ぶお ヴオ
x または l	あ ア	い イ	う ウ	え エ	お オ
xk	カ カ			ケ ケ	
xt			つ ツ		
xts			つ ツ		
xy	ヤ ヤ		ゆ ユ		よ ヨ
xw	わ ワ	ゐ ヰ		ゑ エ	

特別例

上記の表以外でつづられるローマ字は次のとおりです。

「ん」のつづり方

n の後に、母音または y を入力しない場合に使います。また、次に入力する子音を入力したとき「ん」に変換します。

- nn
- n-
- n'

「っ」のつづり方

次に続く子音を重ねます。ただし、n を重ねることで「っ」に変換することはできません。

操作一覧

表 B-1 操作一覧 (日本語キーボード)

機能		操作方法
日本語入力モードのオンとオフ		『日本語 On・Off キー』、『Control + スペース』または『Control + @』
ローマ字入力/かな入力の切り替え		『ローマ字/かなキー』、または『Control +]』と『Control + K』
かな漢字変換	次候補	『変換キー』または『Control + N』
	前候補	『Control + P』
	変換候補の一括表示	『Control + W』
区点コード入力 モードでの区一覧表示		『変換キー』
フォーカスの移動	前方向	『Control + F』
	後方向	『Control + B』
フォーカスの範囲	一文字拡張	『Control + I』
	一文字縮小	『Control + U』
入力途中の一文字削除		『Control + H』、『Del キー』、または『Back Space キー』

表 B-1 操作一覧 (日本語キーボード) 続く

機能	操作方法
入力途中の全文削除	『Control + J』と『Control + U』
確定	『確定キー』または『Control + K』
全角カタカナ → ひらがな変換	『Control + J』と『F11』または『Control + J』と『Control + O』
半角カタカナ → ひらがな変換	『Control + J』と『F11』または『Control + J』と『Control + O』
ひらがな → 全角カタカナ変換	『Control + J』と『F10』または『Control + J』と『Control + Y』
半角カタカナ → 全角カタカナ変換	『Control + J』と『F10』または『Control + J』と『Control + Y』
全角カタカナ → 半角カタカナ変換	『Control + J』と『F8』または『Control + J』と『Control + Z』
ひらがな → 半角カタカナ変換	『Control + J』と『F8』または『Control + J』と『Control + Z』
半角英数字 → 全英数字変換	『Control + J』と『F9』または『Control + J』と『Control + T』
全角英数字 → 半英数字変換	『Control + J』と『F7』または『Control + J』と『Control + R』
学習機能のオンとオフ	『Control + J』と『Control + L』
ひらがなモード	『F11』または『Control + O』
全角カタカナ・モード	『F10』または『Control + Y』
全角英数字モード	『F9』または『Control + T』
半角カタカナ・モード	『F8』または『Control + Z』
半角英数字モード	『F7』または『Control + R』

表 B-1 操作一覧 (日本語キーボード) 続く

機能	操作方法
区点コード入力モード	『F6』 または 『Control + Q』
部首入力モード	『Control + V』

表 B-2 操作一覧 (英語キーボード)

機能	操作方法	
日本語入力モードのオンとオフ	『Control + スペース』 または 『Control + @』	
かな漢字変換	次候補	『Control + N』
	前候補	『Control + P』
	変換候補の一括表示	『Control + W』
区点コード入力 モードでの区一覧表示	『Control + N』	
フォーカスの移動	前方向	『Control + F』
	後方向	『Control + B』
フォーカスの範囲	一文字拡張	『Control + I』
	一文字縮小	『Control + U』
入力途中の一文字削除	『Control + H』、『Del キー』、または『Back Space キー』	
入力途中の全文削除	『Control + J』と『Control + U』	
確定	『Control + K』	
全角カタカナ → ひらがな変換	『Control + J』と『Control + O』	
半角カタカナ → ひらがな変換	『Control + J』と『Control + O』	

表 B-2 操作一覧 (英語キーボード) 続く

機能	操作方法
ひらがな → 全角カタカナ変換	『Control + J』と『Control + Y』
半角カタカナ → 全角カタカナ変換	『Control + J』と『Control + Y』
全角カタカナ → 半角カタカナ変換	『Control + J』と『Control + Z』
ひらがな → 半角カタカナ変換	『Control + J』と『Control + Z』
半角英数字 → 全英数字変換	『Control + J』と『Control + T』
全角英数字 → 半英数字変換	『Control + J』と『Control + R』
学習機能のオンとオフ	『Control + J』と『Control + L』
ひらがなモード	『Control + O』
全角カタカナ・モード	『Control + Y』
全角英数字モード	『Control + T』
半角カタカナ・モード	『Control + Z』
半角英数字モード	『Control + R』
区点コード入力モード	『Control + Q』
部首入力モード	『Control + V』

索引

C

config 104, 108
cs00
 起動 111
 再起動方法 111
cs00_m.dic 65
cs00_u.dic 65
csdef 104
cssd 111
cstab 104

H

htt 83, 95, 98
 プロパティーマネージャ 83

K

keybind 104, 106

M

mdicm 65
MLEPATH 96, 105, 107

R

resources 95 - 97

U

udicm 65, 68
udicmtool 68

X

xci 92, 95

え

英数字キーボード
 日本語入力モードオフ 22
 日本語入力モードオン 22
 入力モードのオンとオフ 21

か

確定 31, 53, 118, 119
確定文字列
カスタマイズ機能 91
かな漢字変換 27, 49, 117, 119
かな入力 117

き

キー割り当て 97

く

区点コード入力 34
区点コード入力方法 35, 57, 117, 119
 応用 36, 58
区点コード入力モード
 日本語 EUC コードセット 26, 48
区点コード番号 34, 56

さ

再変換 29, 51

し

辞書

管理 65

メイン辞書 65

ユーザー辞書 65

読み込み 71

辞書登録ツール

アイコン 71

主な機能 71

ベースウィンドウ 70

修飾子 99

せ

全角英数字 19

全角英数字モード 23, 45

全角カタカナ 19

全角カタカナ・モード 22, 44

全角ひらがな 19

全文削除 118, 119

つ

つづり方 113

に

日本語キーボード

日本語入力モードオフ 44

日本語入力モードオン 43

入力モードのオンとオフ 43

日本語入力モード 17

入力方法の表現

入力モードのオンとオフ 21, 117, 119

入力よみ文字列

は

半角英数字 19

半角英数字モード 24, 46

半角カタカナ 19

半角カタカナ・モード 24, 46

ひ

一文字削除 40, 62, 117, 119

表記上の規則

ひらがなモード 25, 47

ふ

ファンクションキー 106

フォーカス 28

移動 28, 50, 117, 119

範囲 39, 61, 117, 119

部首入力 37

プレエディット 5, 84

へ

変換 49

変換候補の一括表示 30, 52, 117, 119

変換文字列

み

未確定文字列

全削除 41, 63

め

メイン辞書

単語数 67

登録できない 68

編集 67

も

文字削除 40, 62

文字種の相互変換 32, 54

文字の種類 19

ゆ

ユーザー辞書 65

書き込み許可 66

コアダンプ 66

登録できる単語 69

登録できる読み 68

編集 68

ユーザー辞書管理ツール 68

ユーザー辞書ツール 68

起動 69
使用方法 69
対象辞書 69
ユーザー定義文字
移行 82
再登録 82

れ

連文節かな漢字変換 27, 49

ろ

ローマ字入力 18, 48, 117